

放送大学アニュアルレビュー 2019

The Open University of Japan Annual Review 2019



秋田学習センター
「さまざまな展示 in ごじょうめ」

大阪学習センター
「太極拳クラブ」

岡山学習センター
「演劇クラブ」

赤城学習センター
「合唱クラブ」

愛媛学習センター 面接授業
「飛行機はなぜ飛ぶのか」

宮崎学習センター
「ひまわりふれあい祭りおもしろ科学実験」



2019年度 学位記授与式

2020年3月21日(土)にNHKホールにおいて開催される予定だった学位記授与式及び各学習センターにおいて行われる予定だった学位記授与式は、我が国における新型コロナウイルス(COVID-19)感染症が拡大している状況を受け、卒業生・修了生及びその他関係者の健康・安全面を第一に考慮して中止された。

学位記授与式が中止となったのは、東日本大震災の影響を受けた2010年度以来9年ぶりである。

なお、2019年度の学部卒業生は5,548名、大学院修士課程修了生は319名、大学院博士後期課程修了生は2名であった。



CONTENTS

学長挨拶	2	国際交流の取り組み	21
特集	3	社会への貢献	23
オンライン授業	5	学習センターの活動、この1年	26
充実した教育内容	6	データで見る放送大学の概要	32
放送大学における研究	15		

【編集】

■放送大学学内広報委員会

委員長／石崎 克也教授(自然と環境)

生活と福祉／大曾根 寛教授

人間と文化／島内 裕子教授

茨城学習センター／佐藤 和夫所長

担当副学長／池田 龍彦(オブザーバー)

副委員長／大曾根 寛教授(生活と福祉)

心理と教育／波田野 茂幸准教授

情報／伏見 清香教授

総務部長／加藤 弘樹

事務局／総務部広報課

社会と産業／原田 順子教授

自然と環境／隈部 正博教授

学習センター支援室長／山内 克也

「放送大学アニュアルレビュー2019」は、2019年4月～2020年3月の放送大学の活動を記録したものであり、本文に記載されている氏名・職名等は2019年度当時のものです。

Annual Review 2019の刊行に寄せて



2020年8月
学長 來生 新

2019年度は、年度末に日本全国に広まった新型コロナウイルスとの関係で、長く記憶されるべき年度となった。2019年11月武漢で発生した新型コロナウイルスは、日本でも2020年1月16日に初感染者の出現が判明した後、2月から3月にかけて北海道や首都圏を中心に国内各地でも急激に感染者、死者が発生するようになり、医療崩壊が危惧される状況になった。3月24日には、2020年7月に開催予定であった東京オリンピックの延期が決定される事態に至る中で、本学もさまざまな対応を迫られた。

毎年NHKホールで行っていた学位記授与式、そのあとの祝賀パーティの中止にとどまらず、図書館の休館、教員免許更新講習の修了認定試験の方式変更、感染者の出していない都道府県を含めた全国の学習センターの一斉閉鎖と諸活動の中止、本部で予定されていた大学院の修士・博士の新入生オリエンテーションの中止・方式変更、4月以降の面接授業等の中止・方式変更等々、2月から3月にかけて、矢継ぎ早にさまざまな対応をとらざるを得なくなった。年度をまたいで2020年度に至っても、新型コロナウイルスの蔓延に対する対策は連続的にとられている。

その他の事項について、これも暗いニュースだが、学生数の継続的にかつ大幅な減少、とりわけ新規入学者数の減少傾向に歯止めがかかる状況には至っていない。

しかし、明るいニュースとしては、2018年10月からスタートした、231チャンネル(BSキャンパスex)を生涯学習支援・社会教育チャンネルとして、232チャンネルを従来通りの大学の授業チャンネル(BSキャンパスon)として位置づける新体制が、着実に動き出したことがある。従来からあるシステムWAKABAと並んで、生涯教育履歴を蓄積するAOBAシステムの設計と構築が進んだことは、新体制を支える基盤が構築されつつあることを意味する。将来に向かっての希望の星ともいべき新体制の順調な発展が望まれる。

2019年に行った概算要求で、2020年度にデータサイエンス関連の新たな教育活動を行うことが認められ、21世紀の国民教育の課題としてのデータサイエンス教育の普及に、本学の特色を生かした貢献ができる道が開かれ、その予備的な活動も2019年度から始まった。本学の将来に向けて、このことの持つ意味は大きいことを記して、アニュアルレビュー2019の刊行に寄せる言葉のまとめとしよう。

公認心理師対応カリキュラム(学部段階)がスタート

公認心理師は2015年に成立した「公認心理師法」に基づく、心理職の国家資格です。

本学では毎年約1,000名の教養学部所属の学生が、認定心理士の資格取得要件を満たしている。
また、大学院臨床心理学プログラムでは、毎年約30名が修士課程を修了し、臨床心理士になる道を拓いている。
これらに加え、2019年度から公認心理師試験受験資格における学部段階での要件を満たせるようになった。

公認心理師資格取得までの流れ

放送大学教養学部

法施行後(2017年度第2学期以降)に全科履修生として入学し、
「大学における必要な科目」(25科目52単位)をすべて修得して卒業
※放送大学は現時点では学部段階のみ対応

大学院修士課程

450時間以上の実習を含むカリキュラムをもつ大学院で、「大学院における必要な科目」の単位を全て修得して修了
※放送大学大学院のカリキュラム開設は現在検討中であり、今後の対応については現時点では未定

2年の実務経験

法の規定する認定施設での実務経験2年

公認心理師試験受験

公認心理師資格取得



公認心理師リーフレット



公認心理師特集ページ(HP)

「大学は歌う」プロジェクトの終了

「大学は歌う」プロジェクトは、2017年3月に南関東7学習センターの学生が中心となってベートーヴェン「第九」演奏会を開催したことを契機として、歌の「輪」を全国に広げて全国の学生が一丸となって取り組むべく2018年度に発足した。その目的は、学歌と第九合唱の練習の過程を通して学習センター同士を結び付けるとともに学生及び教職員の交流を促進することによって本学の活動の活発化を促し、その結果として学位記授与式において学歌と第九合唱により式を盛り上げることであり、2019年3月24日に開催された2018年度第2学期学位記授与式において合唱を披露した。

2020年度からしばらくの間NHKホールが使えなく

なるため、2019年度第2学期の学位記授与式での学歌と第九合唱をもってその役割を終える予定としていたが、2020年2月26日に新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の感染拡大により、学位記授与式の中止が決まったため、合唱を行うことなくプロジェクトは終了することとなった。

学位記授与式での合唱こそできなくなったものの、千葉学習センターで行われた合同練習では、テレビ会議システムZoomを用いて全国各地の学習センターで同時に練習を行い、お互いが遠く離れていても心を一つにして一緒に歌い、そのつながりを強めていくというプロジェクトの目的は十二分に達成された。

Zoomを用いた練習風景



オンライン授業

インターネットによる授業

2019年度は1学期に教養学部5科目、大学院修士課程5科目、2学期に大学院修士課程2科目を開講した。また2019年度2学期開講の大学院修士課程2科目、2020年度開講の教養学部10科目、大学院修士課程2科目を制作した。

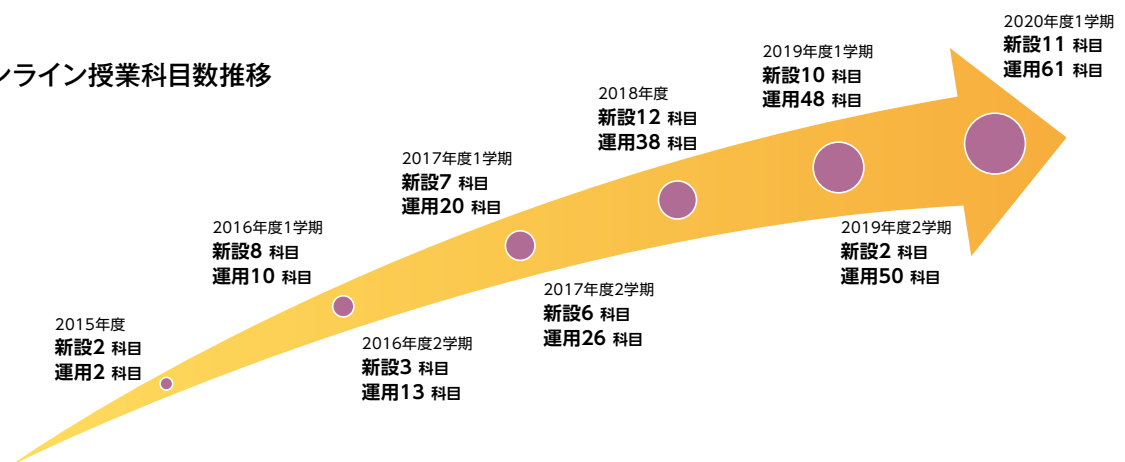
2019年度教養学部 新規開設科目

コース		科目名	単位数
基盤科目(外国語)	基盤科目	教養で読む英語('19)	2単位
基盤科目(外国語)	基盤科目	看護・医療の英語('19)	1単位
人間と文化	専門科目	言語研究法('19)	2単位
情報	専門科目	情報ネットワークセキュリティ('19)	2単位
自然と環境	導入科目	演習微積分('19)	1単位

2019年度大学院修士課程 新規開設科目

1学期		
プログラム	科目名	単位数
情報学	情報とコミュニケーション('19)	2単位
社会経営科学	環境工学('19)	2単位
社会経営科学	実践的都市景観形成論('19)	2単位
自然環境科学	地球を読み解く('19)	2単位
自然環境科学	野外生物調査法('19)	2単位
2学期		
プログラム	科目名	単位数
生活健康科学	統合臨床病態生理学・疾病概論('19)	2単位
生活健康科学	統合医療安全・特定行為実践特論('19)	1単位

オンライン授業科目数推移



	2015		2016		2017		2018	2019		2020
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	1学期	2学期	1学期
制作科目数 (コマ数)	11 (116)	—	13 (160)	—	12 (159)	—	10 (136)	14 (129)	—	12 (109)
運用科目数	2	2	10	13	20	26	38	48	50	61

充実した教育内容

テレビ・ラジオによる授業

放送授業

放送授業は、面接授業、オンライン授業と並び、本学の教育の中心に位置づけられるものである。

2019年度第2学期(2019年10月～2020年3月)には、学部276科目、大学院58科目の合計334科目を開設しており、原則として4年間(毎年2学期ずつ、合計8学期間)放送している。したがって、全開設科目のおよそ4分の1ずつが、毎年入れ替わる。

2019年度の新規開設科目は、学部50科目(テレビ

31科目、ラジオ19科目)、大学院11科目(ラジオ11科目)の合計61科目である。

2019年度全開設科目数

	第1学期		第2学期	
	テレビ科目	ラジオ科目	テレビ科目	ラジオ科目
学部	155	121	155	121
	276		276	
大学院	5	53	5	53
	58		58	
合計	160	174	160	174
	334		334	

2019年度新規開設科目一覧(学部) (TV=テレビ、R=ラジオ)

科目区分	科目名称	メディア
基盤科目	問題解決の進め方('19)	TV
	国際理解のために('19)	R
基盤科目(外国語)	ドイツ語I('19)	TV
	ドイツ語II('19)	R
生活と福祉	導入科目	
	健康への力の探究('19)	R
	健康長寿のためのスポーツロジー('19)	TV
	人間にとって貧困とは何か('19)	R
	公衆衛生('19)	R
	リハビリテーション('19)	R
	専門科目	
	今日のメンタルヘルス('19)	TV
	高齢期の生活変動と社会的方策('19)	R
	社会保障の国際動向と日本の課題('19)	TV
心理と教育	導入科目	
	教育社会学概論('19)	TV
	専門科目	
	教育の行政・政治・経営('19)	R
社会と産業	導入科目	
	特別支援教育総論('19)	R
	知覚・認知心理学('19)	TV
	思春期・青年期の心理臨床('19)	R
	導入科目	
	経済社会を考える('19)	R
	社会調査の基礎('19)	TV
	グローバル化時代の日本国憲法('19)	TV
	現代経済学('19)	TV
	財政と現代の経済社会('19)	TV
国際法('19)	R	
専門科目		
現代日本の政治('19)	TV	
日本政治外交史('19)	TV	
国際経営('19)	R	
経営情報学入門('19)	TV	
グローバル化と日本のものづくり('19)	TV	
総合科目		
エネルギーと社会('19)	TV	

科目区分	科目名称	メディア
人間と文化	導入科目	
	漢文の読み方('19)	R
	コミュニケーション学入門('19)	R
	博物館概論('19)	TV
	専門科目	
	文学・芸術・武道にみる日本文化('19)	TV
アメリカの芸術と文化('19)	TV	
ヨーロッパ文学の読み方—近代篇('19)	R	
博物館資料保存論('19)	TV	
博物館経営論('19)	R	
情報	導入科目	
	計算の科学と手引き('19)	TV
	情報理論とデジタル表現('19)	TV
	専門科目	
	自然言語処理('19)	R
	情報社会のユニバーサルデザイン('19)	TV
Webのしくみと応用('19)	TV	
総合科目		
情報化社会と国際ボランティア('19)	TV	
自然と環境	導入科目	
	入門線型代数('19)	TV
	専門科目	
	生命分子と細胞の科学('19)	TV
	力と運動の物理('19)	TV
	量子化学('19)	TV
宇宙の誕生と進化('19)	TV	
統計学('19)	R	
数学の歴史('19)	TV	

2019年度新規開設科目一覧(大学院)

プログラム名	科目名称	メディア
生活健康科学	コミュニティヘルスケア研究('19)	R
	ヘルスリサーチの方法論('19)	R
	スポーツ・健康医学('19)	R
人間発達科学	成人の発達と学習('19)	R
	臨床心理面接特論I('19)	R
臨床心理学	臨床心理面接特論II('19)	R
	障害児・障害者心理学特論('19)	R
	美学・芸術学研究('19)	R
人文学	美学・芸術学研究('19)	R
	ソフトウェア工学('19)	R
情報学	ソフトウェア工学('19)	R
	コンピューティング('19)	R
自然環境科学	現代物理の展望('19)	R

インターネットラジオ(radiko.jp)

2012年度から、ラジオ科目はradiko(ラジオ)を利用してパソコンやスマートフォンなどで聴取可能となっている。

特別講義

特別講義では、各学問分野の第一人者が、その学問について深く掘り下げて講義を行っている。

2019年度は新規開設7講義(テレビ4講義、ラジオ3講義)を含む、全78講義(テレビ32講義、ラジオ46講義)の特別講義を放送した。

2019年度新規開設特別講義

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
「風狂を生きる精神 ～一休・蕭白からアラキーまで～」	詩人 林 浩平	TV
マヤの宇宙観 ～聖なる時間と十字架～	立教大学名誉教授 実松 克義 放送大学准教授 佐藤 仁美	TV
気仙沼ESDの軌跡：持続可能な社会の創造をめざして	東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター 特任研究員(主幹研究員) 及川 幸彦	TV
摩擦の世界	青山学院大学教授 松川 宏 筑波大学准教授 氏家 恒太郎 東京大学生産技術研究所教授 川勝 英樹	TV
研究不正と研究倫理	放送大学教授 児玉 晴男	R
DV被害者の声 ～求められる支援のありかとは～	愛知県立大学名誉教授 須藤 八千代	R
科学は文化だ ―科学技術週間60年の変遷にみる日本の科学と社会―	日本科学未来館広報・普及課長 冨田 知宏 放送大学教授 奈良 由美子 文部科学省人材政策課課長補佐 石橋 一郎	R

2019年度放送の特別講義

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
「風狂を生きる精神 ～一休・蕭白からアラキーまで～」	詩人 林 浩平	TV
マヤの宇宙観～聖なる時間と十字架～	立教大学名誉教授 実松 克義 放送大学准教授 佐藤 仁美	TV
「おくのほそ道」の真髄～芭蕉自筆本に基づく新研究～	放送大学教授 魚住 孝至	TV
笑いの哲学～コトで分析～	日本笑い学会会長・関西大学人間健康学部教授 森下 伸也	TV
年縞が語る地球環境史	国際日本文化研究センター名誉教授・ ふじのくに地球環境史ミュージアム館長 安田 喜憲	TV
第九を楽しむ 放送大学・ベートーヴェン交響曲第九演奏会 ～東京藝術大学奏楽堂～	千葉大学教授・作曲家 山本 純ノ介 横浜国立大学名誉教授 茂木 一衛	TV
文人精神の系譜 ―与謝蕪村から吉増剛造まで―	恵泉女学園大学特任教授・詩人 林 浩平	TV
森鷗外と明治の青春 ―「青年」を中心に―	放送大学教授 島内 裕子 森鷗外記念会顧問・跡見学園理事長 山崎 一穎	TV
古代アンデス文明と日本人	放送大学教授 稲村 哲也 東京大学名誉教授 大貫 良夫	TV
薩摩硫黄島の熊野三山と『平家物語』	國學院大學教授 野中 哲照	TV
アクティブシニアのICT活用生活	同志社大学客員教授 関根 千佳 放送大学教授 広瀬 洋子	TV
公共人類学 ―人類学の社会貢献―	東京大学名誉教授・帝京平成大学教授 山下 晋司	TV
伝承芸能の魅力 ～薩摩川内市の東郷文弥節人形浄瑠璃～	鹿児島大学名誉教授 中山 右尚 國學院大學教授 野中 哲照	TV
共に生きる社会を目指して ～「医療的ケア児」をどう支えるのか～	ひばりクリニック院長・NPO法人うりずん理事長 高橋 昭彦	TV
地域包括ケアの理論と実践	慶應義塾大学名誉教授 田中 滋 東京大学特任教授 辻 哲夫 放送大学教授 田城 孝雄	TV
セクシュアル・マイノリティとしての幸せな暮らし ～本当は豊かな性のあり方～	東京大学大学院専任講師 石丸 径一郎	TV
女性アスリートの育成と支援、その課題	順天堂大学大学院教授 小笠原 悦子	TV
気仙沼 ESD の軌跡:持続可能な社会の創造をめざして	東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター 特任研究員(主幹研究員) 及川 幸彦	TV
摩擦の世界	青山学院大学教授 松川 宏 筑波大学准教授 氏家 恒太郎 東京大学生産技術研究所教授 川勝 英樹	TV
ブラックホール ―ばく大なエネルギーの発生源―	東京大学教授 牧島 一夫 東京大学特別栄誉教授 梶田 隆章 放送大学茨城学習センター元所長 横沢 正芳	TV
ノーベル賞科学者の軌跡I 私が感化された教育とは	名古屋大学特別教授・名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長 益川 敏英 東京大学特別栄誉教授・東京大学宇宙線研究所長 梶田 隆章	TV
ノーベル賞科学者の軌跡II どう鍛えられ研究を深めたか	名古屋大学特別教授・名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長 益川 敏英 東京大学特別栄誉教授・東京大学宇宙線研究所長 梶田 隆章	TV
トップアスリートのメンタルに学べ	スポーツメンタルトレーニング上級指導士・ ソウル五輪シンクロデュエット銅メダリスト 田中 ウルヴェ 京	TV

2019年度放送の特別講義			
講義題目名	出演講師	*開設当時の肩書	メディア
エンジニアが映像で挑む! 〜トップアスリート強化〜	国立スポーツ科学センタースポーツ科学研究部専門研究員	三浦 智和	TV
イギリスの科学教育に学ぶ	東京工業大学名誉教授 市村 禎二郎 東京工業大学名誉教授・津田塾大学客員教授 酒井 善則		TV
正確な時計は基礎科学を開く窓	国立研究開発法人情報通信研究機構理事 細川 瑞彦 国立研究開発法人情報通信研究機構時空標準研究室長 花土 ゆう子		TV
ゆるくて楽しい歩行圏コミュニティ 〜富山市・高齢社会デザイン開発プロジェクト〜	富山大学大学院准教授 中林 美奈子 / 放送大学教授 田城 孝雄		TV
海底に探るエネルギー資源 〜日本海・メタンハイドレート〜	明治大学研究・知財戦略機構ガスハイドレート研究所代表 松本 良		TV
ヒマラヤ高所に生きる人々の生活と健康 ―高所適応とグローバル化による攪乱―	放送大学特任教授 稲村 哲也 / 京都大学連携教授 奥宮 清人		TV
脳波で動く 1/f ゆらぎ癒しロボット	茨城大学名誉教授 白石 昌武		TV
遷移金属触媒の魔法の力 〜サステナブルな21世紀への鍵〜	パデュエ大学特別教授 根岸 英一		TV
ウナギ 大回遊の謎を追う	日本大学教授 塚本 勝巳		TV
通信教育で人生が変わった 〜女優・作家 中江有里〜	女優・作家 中江 有里		R
箏曲の世界 〜宮城道雄の残したもの〜	元東京藝術大学教授・学術博士 安藤 政輝		R
オリンピックボランティアの世界 ①誕生と貢献の歴史	早稲田大学スポーツビジネス研究所招聘研究員 市居 愛		R
オリンピックボランティアの世界 ②東京で夢をかなえる	早稲田大学スポーツビジネス研究所招聘研究員 市居 愛		R
編集者漱石 ①編集者子規	大阪芸術大学教授 長谷川 郁夫 / 東京大学名誉教授 草光 俊雄		R
編集者漱石 ②朝日新聞の時代	大阪芸術大学教授 長谷川 郁夫 / 東京大学名誉教授 草光 俊雄		R
人間発達と初期環境	お茶の水女子大学名誉教授 藤永 保		R
私、あきらめない! 〜車いす女優・萩生田千津子の原点〜	女優 萩生田 千津子		R
私、舞台を降りない! 〜車いす女優・萩生田千津子の世界〜	女優 萩生田 千津子		R
メディアと与謝野晶子	歌人 松村 由利子 / 放送大学教授 広瀬 洋子		R
心に響く音文化(おんぶんか)第1回「民族音楽学への招待」	兵庫教育大学名誉教授 水野 信男		R
心に響く音文化(おんぶんか)第2回「中東の音文化」	兵庫教育大学名誉教授 水野 信男		R
幻の私小説家・藤澤清造	作家 西村 賢太		R
つなぐ言葉としての方言 ―3.11被災地から―	東北大学大学院教授 小林 隆		R
音楽表現と情報環境	音楽家 タケカワ ユキヒデ		R
ことばの礼儀作法 第1回「日常会話の点検(前編)」	元NHKエグゼクティブアナウンサー 梅津 正樹		R
ことばの礼儀作法 第2回「日常会話の点検(後編)」	元NHKエグゼクティブアナウンサー 梅津 正樹		R
研究不正と研究倫理	放送大学教授 児玉 晴男		R
DV被害者の声 〜求められる支援のありかとは〜	愛知県立大学名誉教授 須藤 八千代		R
病・人・社会(1) 〜統合失調症が教えること〜	東洋大学教授 白石 弘巳		R
病・人・社会(2) 〜人を支援する人が受け取るもの〜	東洋大学教授 白石 弘巳		R
困ったら、頼っていいんだよ〜孤立する子どもたちに私たちができること〜	NPO法人3keys代表理事 森山 誓恵		R
急増するうつ病：人間の孤独とコミュニティの視点から	放送大学副学長 宮本 みち子 放送大学教授 石丸 昌彦 / 放送大学教授 広瀬 洋子		R
インド・現代世界の縮図 ―経済成長と民主主義―	元アジア経済研究所地域研究部長 佐藤 宏		R
医療・健康で地域をつなぐ	大阪産業大学教授 佐藤 真治		R
現代社会におけるイノベーションの意味	元早稲田大学大学院教授 吉川 智教		R
ライフ・イノベーションからの利益の帰属と倫理	政策研究大学院大学教授 隅藏 康一		R
終活学 満足して人生を終える	東京医科大学客員教授 長尾 和宏		R
江戸農書からみる現代農業と日本社会	大阪経済大学学長 徳永 光俊		R
障害者差別解消法と差別を解消するための研修について	放送大学教授 広瀬 洋子 / 国際協力機構国際協力専門員 久野 研二 日本障害者リハビリテーション協会研修課課長 奥平 真砂子		R
オーラル・ヒストリーの課題と展望	放送大学客員教授 御厨 貴 東京大学先端科学技術研究センター教授 牧原 出		R
「まぜこぜ社会」が世界を変える	女優・一般社団法人Get in touch理事長 東 ちづる 放送大学客員教授 井上 洋士		R
患者とともに生きる医療	東京大学名誉教授・三井記念病院院長 高本 眞一		R
幕末の日本人が見たアメリカ 〜万延元年遣米使節の異文化理解〜	大正大学名誉教授 鈴木 健次		R
東日本大震災からの復興に携わって ―復興構想会議を中心に―	神戸大学名誉教授 五百旗頭 真		R
記憶を記録に / 津波で失われた写真の回収、修復、保存、返還作業	放送大学教授 高橋 和夫		R
科学は文化だ ―科学技術週間60年の変遷にみる日本の科学と社会―	日本科学未来館広報・普及課長 富田 知宏 放送大学教授 奈良 由美子 文部科学省人材政策課課長補佐 石橋 一郎		R
天文学を魅力的に伝えたい	国立天文台准教授 縣 秀彦		R
ヒューマンインタフェース技術のタネは日常生活のなかにある	放送大学名誉教授 黒須 正明		R
食の安全と環境汚染物質〜メチル水銀を例に〜	内閣府食品安全委員会委員長 佐藤 洋		R
脳と心 ―分子生物学者がみた精神医学― ①部品の科学と全体としての脳	東京都医学総合研究所病院等連携研究センター長 糸川 昌成		R
脳と心 ―分子生物学者がみた精神医学― ②家族の旅から回復を体験すること	東京都医学総合研究所病院等連携研究センター長 糸川 昌成		R
ネアンデルタール人はなぜ滅びたのか 〜交替劇プロジェクトの探究〜	高知工科大学名誉教授 赤澤 威		R
物理学における対称性とその破れ	高エネルギー加速器研究機構特別栄誉教授 小林 誠		R
岡潔の生涯と学問	九州大学教授 高瀬 正仁		R
漢詩をうたう	和光大学講師 荘 魯迅		R

インターネット配信

2007年度から、在学生用ホームページ(システムWAKABA)で、放送授業のインターネット配信(オンデマンド)を開始した。2019年度は、テレビ科目とラジオ科目全てをインターネット配信している。2019年度の配信科目数は、テレビ165科目、ラジオ179科目、特別

講義78講義である。

2019年度のインターネット配信科目数

	テレビ	ラジオ
放送授業	165	179
特別講義	32	46
合計	197	225

寄附科目

本学では、様々な機関からの支援を受け、社会の要請に応じた寄附科目を開設している。2019年度には、3科目の寄附科目を放送した。

2019年度開設寄附科目一覧

科目名	寄附団体名	メディア
著作権法('18)	日本音楽著作権協会(JASRAC)	R
現代の内部監査('17)	日本内部監査協会	TV
社会と銀行('14)	全国銀行協会	TV

対面による授業

面接授業(スクーリング)

面接授業は、放送授業、オンライン授業とともに本学の教育の中心に位置づけられるものであり、全国50カ所の学習センターと7カ所のサテライトスペースで開講している。2019年度は、3,032科目(1学期1,549科目、2学期1,483科目)を開講している。

本学の専任教員や地元の大学教員等による対面での授業であり、教員と学生の交流だけでなく、学生同士の出会い、ともに学ぶ楽しさを共有できる機会ともなっている。

授業内容は、教養学部という特性に応じた幅広い学問分野に富んでおり、授業形態も通常の講義形式だけでなく、実験やフィールドワークなど多彩な形態で開講している。

また、単独の学習センターのみの開講だけでなく、各地域の特色を生かしたテーマの下でブロック間の学習センターが連携し、リレー形式でも開講した。

2014年度から、入学生も出願手続きの際、一定の条件を満たせば、入学学期当初から面接授業を登録申請できるよう制度を改正した。

さらに、学生ニーズの高い認定心理士資格取得に必要な「心理学実験科目」を、東京文京学習センターにおいて連日授業を開設する特別開設を開始している。

このように意欲ある学生に、できるだけ多くの学習機会を提供できるよう常に制度の見直し、学生サービスの向上を図っている。



秋田学習センター
「工芸ガラスを知り制作体験する」



新潟学習センター
「海洋生物の多様性と適応変化(佐渡)」

オープンコースウェア

オープンコースウェア(OCW)とは「大学で正規に提供された講義とその関連情報のインターネット上での無償公開活動」のことである。

学びたい人すべてがいつでも学べる「開かれた大学教育」を目指して設置された本学は、オープンコース

ウェアの理念に賛同し、2009年日本オープンコースウェアコンソーシアムに正会員として加盟した。本学の放送授業は全部で約330科目あり、2014年度からはほとんどの授業科目について、1回または全15回をインターネットで無償公開している。

2019年度オープンコースウェア科目(全15回分を公開)一覧

テレビ授業科目		ラジオ授業科目	
科目名	講師	科目名	講師
今日のメンタルヘルス('19)	石丸 昌彦	健康への力の探求('19)	戸ヶ里 泰典/中山 和弘
社会保障の国際動向と日本の課題('19)	埋橋 孝文/居神 浩	思春期・青年期の心理臨床('19)	大山 泰宏
教育社会学概論('19)	岩永 雅也	コミュニケーション学入門('19)	大橋 理枝/根橋 玲子
経営情報学入門('19)	木嶋 恭一/岸 眞理子	統計学('19)	藤井 良宜
エネルギーと社会('19)	迫田 章義/堤 敦司	ヘルスリサーチの方法論('19)	井上 洋士
博物館概論('19)	稲村 哲也	成人の発達と学習('19)	岩崎 久美子
Webのしくみと応用('19)	森本 容介/伊藤 一成	コンピューティング('19)ー原理とその展開ー	萩谷 昌己
生命分子と細胞の科学('19)	二河 成男	現代物理の展望('19)	岸根 順一郎/松井 哲男
宇宙の誕生と進化('19)	谷口 義明	看護管理と医療安全('18)	大島 弓子/飯島 佐知子
地域コミュニティと教育('18)	玉井 康之/夏秋 英房	日本仏教を捉え直す('18)	末木 文美士/頼住 光子
博物館情報・メディア論('18)	稲村 哲也/近藤 智嗣	現代を生きるための化学('18)	橋本 健朗/藤野 竜也
太陽と太陽系の科学('18)	谷口 義明/吉川 真	解析入門('18)	河添 健
コンピュータとソフトウェア('18)	辰己 丈夫/中谷 多哉子	心理と教育へのいざない('18)	田中 統浩/向田 久美子
地球温暖化と社会イノベーション('18)	六川 修一/向井 人史	福祉政策の課題('18)	大曾根 寛/金川 めぐみ
住まいの環境デザイン('18)	梅干野 晁/田中 稲子	情報学の技術('18)	中谷 多哉子/辰己 丈夫
人体の構造と機能('18)	坂井 建雄/岡田 隆夫	睡眠と健康('17)	宮崎 総一郎/林 光緒
初歩からの化学('18)	安池 智一/鈴木 啓介	環境問題のとりえ方と解決方法('17)	岡田 光正/藤江 幸一
レジリエンスの諸相('18)	奈良 由美子/稲村 哲也	日本文学の名作を読む('17)	島内 裕子/島内 景二
疾病の成立と回復促進('17)	岡田 忍/佐伯 由香	線型代数学('17)	隈部 正博
現代社会の児童生徒指導('17)	古賀 正義/山田 哲也	生活リスクマネジメント('17)	奈良 由美子
家族と高齢社会の法('17)	川島 志保/関 ふ佐子	音楽・情報・脳('17)	仁科 エミ/河合 徳枝
現代の内部監査('17)	齋藤 正章/蟹江 章	看護学概説('16)	井出 訓/井上 洋士
日本の古代中世('17)	佐藤 信/近藤 成一	社会保険のしくみと改革課題('16)	田中 耕太郎
コンピュータの動作と管理('17)	葉田 善章	エントロピーからはじめる熱力学('16)	安池 智一/秋山 良
問題解決の数理('17)	大西 仁	アルゴリズムとプログラミング('16)	鈴木 一史
物理の世界('17)	岸根 順一郎/松井 哲男	CGと画像合成の基礎('16)	浅井 紀久夫
Walking with Writers('16)	井口 篤/ ステュウト・ヴァーナム・アットキン	生活経済学('16)	重川 純子
データの分析と知識発見('16)	秋光 淳生	政治学へのいざない('16)	御厨 貴/山岡 龍一
ユーザ調査法('16)	黒須 正明/高橋 秀明	音を追う('16)	大橋 理枝/佐藤 仁美
社会福祉への招待('16)	岩田 正美/村田 文世	精神医学特論('16)	石丸 昌彦/広瀬 宏之
世界文学への招待('16)	宮下 志朗/小野 正嗣	計算論('16)	隈部 正博
ダイナミックな地球('16)	大森 聡一/鳥海 光弘	データベースと情報管理('16)	柳沼 良知/三輪 眞木子
入門微分積分('16)	石崎 克也	道を極めるー日本人の心の歴史('16)	魚住 孝至
量子と統計の物理('15)	米谷 文明/岸根 順一郎	教育学入門('15)	岡崎 友典/永井 聖二
環境の可視化('15)	梅干野 晁/中村 恭志	韓国朝鮮の歴史('15)	吉田 光男/井上 直樹
食健康科学('15)	小城 勝相/清水 誠	数理科学('15)	石崎 克也
場と時間空間の物理('14)	米谷 文明/岸根 順一郎	リスク社会のライフデザイン('14)	宮本 みち子/若上 真珠
		社会心理学('14)	森 津太子/大江 朋子

教育

2019年度オープンコースウェア科目(特別講義)一覧

テレビ特別講義		ラジオ特別講義	
科目名	講師	科目名	講師
「風狂を生きる精神ー一休・蕭白からアラキーまでー」	林 浩平	研究不正と研究倫理	児玉 晴男
マヤの宇宙観ー聖なる時間と十字架ー	実松 克義/佐藤 仁美	DV被害者の声ー求められる支援のありかとはー	須藤 八千代
気仙沼 ESDの軌跡:持続可能な社会の創造をめざして	及川 幸彦	科学は文化だ	富田 知宏/奈良 由美子
摩擦の世界	松川 宏/氏家 恒太郎	ー科学技術週間60年の変遷にみる日本の科学と社会ー	中江 有里
「おくのほそ道」の真髄ー芭蕉自筆本に基づく新研究ー	魚住 孝至	通信教育で人生が変わったー女優・作家 中江有里ー	白石 弘巳
笑いの哲学ーコトで分析ー	森下 信也	病・人・社会(1)ー統合失調症が教えることー	白石 弘巳
年編が語る地球環境史	安田 喜憲	病・人・社会(2)ー人を支援する人が受け取るものー	縣 秀彦
第九を楽しむ		天文学を魅力的に伝えたい	安藤 政輝
放送大学・ベートーヴェン交響曲第九演奏会 ー東京藝術大学奏楽堂ー	山本 純ノ介/茂木 一衛	箏曲の世界 ー宮城道雄の残したものー	森山 誉恵
文人精神の系譜ー与謝蕪村から吉増剛造までー	林 浩平	困ったら、頼っていいんだよ ー孤立する子どもたちに私たちができることー	宮本 みち子/石丸 昌彦
ノーベル賞科学者の軌跡 I	益川 敏英/梶田 隆章	急増するうつ病:人間の孤独とコミュニティの視点から	佐藤 宏
私が感化された教育とは	益川 敏英/梶田 隆章	インド・現代世界の縮図 ー経済成長と民主主義ー	佐藤 真治
ノーベル賞科学者の軌跡 II		医療・健康で地域をつなぐ	吉川 智教
どう鍛えられ研究を深めたか		現代社会におけるイノベーションの意味	隅藏 康一
森鷗外と明治の青春ー「青年」を中心にー	島内 裕子/山崎 一類	ライフ・イノベーションからの利益の帰属と倫理	市居 愛
エンジニアが映像で挑む!ートップアスリート強化ー	三浦 智和	オリンピックボランティアの世界①誕生と貢献の歴史	市居 愛
イギリスの科学教育に学ぶ	市村 禎二郎/酒井 善則	オリンピックボランティアの世界②東京で夢をかなえる	長谷川 郁夫/草光 俊雄
正確な時計は基礎科学を開く窓	細川 瑞彦/花土 ゆづ子	編集者漱石①編集者子規	長谷川 郁夫/草光 俊雄
ゆるくて楽しい歩行圏コミュニティ ー富山市・高齢社会デザイン開発プロジェクトー	中林 美奈子/田城 孝雄	編集者漱石②朝日新聞の時代	長尾 和宏
		終活学 満足して人生を終える	徳永 光俊
		江戸農書からみる現代農業と日本社会	黒須 正明
		ヒューマンインタフェース技術のタネは日常生活のなかにある	佐藤 洋
		食の安全と環境汚染物質ーメチル水銀を例にー	
		脳と心-分子生物学者がみた精神医学-	糸川 昌成
		①部品の科学と全体としての脳	
		脳と心-分子生物学者がみた精神医学-	糸川 昌成
		②家族の旅から回復を体験すること	

誰もが心地よく学べるために

特別な支援が必要な学生への学習支援

本学では、いかなる学生に対しても学習機会が阻害され不利益が生じることのないよう、様々な学習支援体制の整備を進めている。例えば、聴覚障がいがある学生への支援としてテレビ授業科目における字幕番組を提供している。

2019年度第2学期に字幕を付して放送を行った授業は124科目あり、これは全テレビ科目の約78%に当たる。特別講義についても33科目全てに字幕を付して放送を行った。

また、インターネット配信では、上記字幕付きテレビ

科目の配信を行った他、7ラジオ科目・2ラジオ特別講義での字幕付加実験に加え、新たに6ラジオ科目のインターネット配信において字幕視聴が可能になった。

さらに、単位認定試験時には、ハンディキャップの程度に応じて、別室受験、試験時間の延長等の特別措置を講じている。例えば、2019年度第2学期単位認定試験における音声出題の対象科目数は125科目で、対象となった学生数は延べ183名であった。また、点字での出題対象科目数は57科目であり、対象となった学生数は延べ73名であった。

科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)の展開

本学では、2006年度から独自の制度として、科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)を導入した。これは本学が指定する特定の授業科目群を履修した学生に対して、ある分野に目的・関心を持ち、そのための学習を体系的に行ったことを証明するものである。その後、2007年に学校教育法が改正され、新たに大学等に「履修証明

制度」が規定されたことを機に、2008年度からは、この「履修証明制度」に対応するものとして再スタートしている。

2020年2月29日までの累計認証取得件数は26,453件にのぼっており、学生の修学目標の一つとして定着していることがわかる。

2019年度認証プランと認証状取得者数(2020年2月29日現在)

認証プラン名	認証状の名称	認証状取得者数	認証プラン名	認証状の名称	認証状取得者数
1 健康福祉指導プラン	健康福祉運動指導者	2,641	17 歴史系博物館プラン	歴史系博物館活動支援	1,463
2 福祉コーディネータプラン	福祉コーディネータ	2,531	18 自然系博物館プラン	自然系博物館活動支援	591
3 社会生活企画プラン	社会生活プランナー	1,311	19 工学基礎プラン	工学基礎	353
4 食と健康アドバイザープラン	食と健康アドバイザー	798	20 人にやさしいメディアデザインプラン	人にやさしいメディアのデザイン	123
5 心理学基礎プラン	心理学基礎	3,619	21 計算機科学基礎プラン	計算機科学の基礎	204
6 臨床心理学基礎プラン	臨床心理学基礎	1,996	22 地域貢献リーダー人材育成プラン	地域貢献リーダー人材	427
7 社会探究プラン	現代社会の探究	609	23 日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成プラン	日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成~2020年ボランティア・ガイド~	90
8 市民活動支援プラン	市民政策論	626	24 学校地域連携コーディネータープラン	学校地域連携コーディネーター	39
9 次世代育成支援プラン	次世代育成支援	1,237	25 データサイエンスプラン	データサイエンス	33
10 異文化コミュニケーションプラン	異文化理解支援	1,105	26 実践経営学プラン※	経営の理解	606
11 日本の文化・社会探究プラン	日本の文化と社会	607	27 ものづくりMOTプラン※	ものづくりとMOT(技術経営)を学ぶ	350
12 宇宙・地球科学プラン	宇宙・地球科学	708	28 コミュニティ学習支援プラン※	地域生涯学習支援	332
13 生命科学プラン	生命人間科学	856	29 アジア研究プラン※	アジア研究	472
14 環境科学プラン	環境科学の基礎	748	30 エネルギー・環境研究プラン※	エネルギー環境政策論	325
15 社会数学プラン	数学と社会	406	合計		26,453
16 芸術系博物館プラン	芸術系博物館活動支援	1,247			

※がつくプランは、2019年3月31日をもって廃止されたが、経過措置として2024年3月31日まで申請が可能である。

他機関への教育支援

単位互換の取り組み

本学は、全国の教育機関と積極的に単位互換協定を進めている。2019年度には、新たに6校の大学と単位互換協定を締結し、合計403校となった。

2019年度に締結した単位互換協定締結校

大学名	大学名	大学名
岐阜保健大学	中京学院大学短期大学部	松蔭大学
青森大学	鹿児島国際大学	島根県立大学大学院

■専修学校との連携協力

本学では、専修学校専門課程と連携協力を実施し、専修学校専門課程に在籍しながら学士(教養)の学位を取得できる制度を設けている。2019年度も新たに2校の専修学校と連携協力の覚書を締結し、合計で50校となった。

2019年度に締結した連携協力校(専修学校)

学校名	学校名
山口コ・メディカル学院	ぐしかわ看護専門学校

キャリアアップを支援する

資格取得

本学で修得した単位は、以下の資格取得等のために活用することができる。

- 看護師国家試験受験資格 ● 教員免許状の上位・他教科・隣接校種の免許状 ● 学校図書館司書教諭資格 ● 特別支援学校教諭二種免許状(知的障害者教育領域・肢体不自由者教育領域) ● 養護教諭免許状 ● 栄養教諭免許状 ● 学芸員資格 ● 社会教育主事任用資格 ● 社会福祉主事任用資格 ● 介護教員講習会の対応科目 ● 看護師の特定行為研修制度対応科目

博物館実習について、2012年度から岐阜女子大学、2017年度から四国大学、九州産業大学との連携による博物館実習を開講した。これは各大学との連携協定で定

める受講資格を満たした本学学生がそれぞれの大学で博物館実習を受講するものである。

また、2009年度からの教員免許更新講習制の実施に伴い、本学でも教員免許更新講習を実施している。本学の特性を活かし、テレビ・ラジオ及びインターネットを利用し、全国どこでも講習の受講が可能となっている。この講習は、毎年2回(夏期及び冬期)実施することとしており、2019年度の講習では、約12,800人が、延べ約58,300科目を受講した。

■キャリアアップ支援認証制度

本学が関係団体と連携して開設する講座など本学が開設する公開講座により体系的に編成された講習を受講された方に対して、独自の認証状を発行する「キャリアアップ支援認証制度」を実施している。本制度は、様々なニーズに応える講座を柔軟な仕組みで提供する

ものであり、本学学生でなくても受講できる。本制度の第1号として、主に小学校教員を対象としたインターネット配信公開講座「プログラミング教育プラン」を2019年度から開設した。

学生の実験成果の公開

本学(学部)では、学生が指導教員から直接、指導を受ける機会を提供するため、卒業研究を開設しており、毎年多くの学生が履修している。そこで2007年度から、卒業研究の履修を将来希望する学生への情報提供として、卒業研究のテーマ一覧と、研究成果である卒業研究報告書の公開を、キャンパスネットワークホームページで開始した。2019年度は、2018年度の「卒業研究報告書テーマ一覧」と「卒業研究報告書(全文)」28点をシステムWAKABAで公開した。

大学院については、修士論文を基にした学生論文集

「Open Forum(放送大学大学院教育研究成果報告)」を2005年3月から刊行している。在学生や今後の入学者への情報提供のほか、大学から社会に向けた情報発信、教員の自己点検・自己評価、修士課程の教育研究内容が具体的に見える資料として利用されることを目的としている。2020年3月刊行の第16号には2018年度修了生全329名の研究成果の中から、論文11点、研究ノート42点が掲載されている。



Open Forum 16号

より質の高い教育を目指して

じっくり3年かけて授業科目を作成

本学では毎年、何十もの放送授業を新たに開設している。一つの放送授業を開設したら、4年から6年程度で内容の見直しを行うためである。閉講して別の放送授業を新設する場合もあれば、既存の内容に新しい情報を加えて改訂する場合もある。そのため、放送授業を担当する講師は、次はどのような内容にするか、どの講師と一緒に教材をつくるかを考えていかなければならない。

下の図のように、授業開始（開講）の3年ほど前から構想を練りはじめ、「このような科目をつくりたい」と大学側に提案する。科目開設が決定すると、「主任講師会議」を開いてスケジュールの確認、編集者等との顔合わせをする。

印刷教材は、授業番組の回数に合わせて15章で構成されており、担当する講師が分担して執筆する。主な内容や分担を決め、締切などのスケジュールを確認したら、原稿執筆に取りかかる。原稿の締切は、授業開始のおよそ1年前。

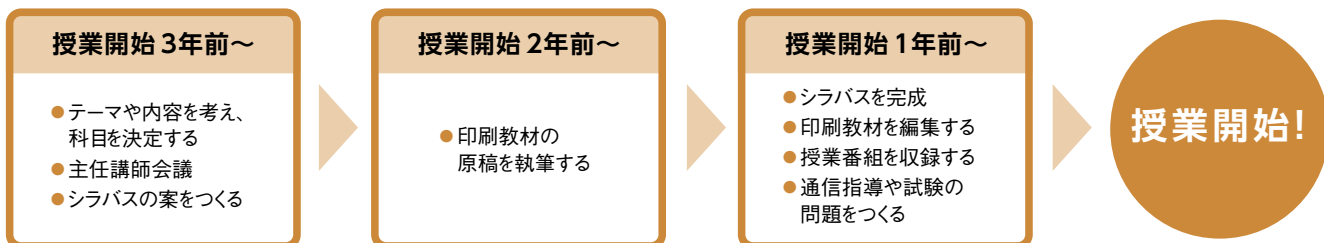


主任講師会議

開講の1年前から、授業番組づくりに入る。スタッフの多くは、教育番組等を制作してきたベテラン。プロデューサーやディレクターと打ち合わせをし、どのような番組構成にするかを決めていく。そして、必要な素材を集め、台本をもとにスタジオでの収録に臨む。

このように約3年間をかけ一つの授業科目は作成される。

授業科目づくりの主な流れ



FD(Faculty Development)の取り組み

FD(Faculty Development)の一環として、2019年12月21日から12月22日に大学で実施されている研究の内容や成果を広く共有し、学園内の教育研究等の活性化を図ることを目的とした研究報告会を学習教育戦略研究所とFD委員会の共催により開催した。

学習・教育情報の分析等を通じたより効果的な学習・教育方法の調査研究を行った11の研究課題について、スライド等を用い成果や進捗状況を報告した。また、同時開催のポスター発表では、研究内容についての説明・質疑応答があり、活発な議論が展開された。

ICTを活用した教育の支援

Web会議システムを用いた同期型遠隔学生指導

本学の授業として、放送授業、面接授業、そしてオンライン授業の他に、卒業研究や修士課程、そして博士後期課程における研究指導が行われている。研究指導においては研究の方向性の決定や論文執筆指導等のために、定期的に教員と指導学生で打ち合わせやゼミを行う必要がある。

本学の学生は全国各地に分散しているため、研究指導のためにOmnijoin(オムニジョイン)というWeb会議システムを導入している。Omnijoinの特徴はリアルタイムの画面共有機能と、一画面で参加者の映像とスライド等の共有画面を表示できる点が挙げられる。また、Omnijoinは学外に置いてある提供者者のクラウドサーバを用いたサービスであるので、ユーザはインターネットに接続しているパソコンやタブレットがあればどこからでも利用できる。

実際の利用方法は、始めに教員が学生と決めた実施日時と、参加人数を指定してWebサイトから予約を行う。予約が完了するとシステムからオンライン会議室のIDと

URLが付与されるので、ゼミの参加者にそのIDとURLを配布する。これでゼミの参加者がパソコンやタブレットからWebブラウザを用いてそのURLにアクセスすると、ゼミに参加できるようになる。パソコンに接続、もしくは内蔵のWebカメラの映像とマイクの音声はプレゼンテーションのファイルと共にWeb会議システムで使用できる。

なお、Omnijoinは2020年9月末をもって提供者者がサービスを終了する予定であるので、2020年度に新しいWeb会議システムへ移行する予定である。



ウェブ会議サービスの画面

小学校でのプログラミング教育への支援

情報技術の普及とともに、世界中で、情報活用教育が行われており、我が国においても、以前から取り組みが行われてきた。近年は、プログラミング教育を小学校段階から実施する国が増え、我が国も、2020年度から小学校でプログラミングの学習機会を設けることになった。そこで、小学校教員を対象としたプログラミング指導法の研修用教材を、本学が展開することになった。

2018年度からオンライン講座「プログラミング教育プラン」として放送番組を制作、また、eラーニングシステムを利用して受講者のためのテストを実施し、修了者には修了証を発行することになった。2019年度から番組が公開され、受講者の募集を開始した。2020年度も、引き続き受講者を募集する。

内容は、「小学校プログラミング教育導入編」と「Scratchプログラミング指導法」の2つであり、前者は、先進的に取り組んでいる事例を紹介しながら、学校現場での導入への不安を解消する説明で構成されてい

る。後者は、実際に授業を行う際に利用されるプログラミング環境のひとつであるScratchを重点的に説明している。



プログラミング教育プラン
パンフレット

放送大学における研究

特別研究と外部資金による研究

本学では、専任教員が数多くのテーマのもと積極的に研究を行い、その成果を世に送り出している。研究の支援・推進のために、特に本学の発展に寄与する教育・研究プロジェクトや学術上あるいは大学運営に貢献する研究に対して特別研究費の制度を設け、プロジェクト支援として、また、教員個人の研究助成として資金面

での支援をしている。さらに、放送大学教育振興会等他機関からの助成基金も積極的に得て研究を進めている。2019年度に特別研究として、また、放送大学教育振興会・日本学術振興会等の助成で実施した研究テーマは以下の通りである。

2019年度学長裁量経費(研究助成)決定者一覧

所属	職名	氏名	研究課題名
心理と教育	准教授	佐藤 仁美	現代マヤに継承される調和の心～宗教人類学・染色化学・臨床心理学からのアプローチ～
社会と産業	准教授	齋藤 正章	グループ経営の管理会計
人間と文化	准教授	宮本 徹	「雅言」概念成立に関する実証的研究
情報	准教授	辻 靖彦	潜在成長モデルを用いた大学規模別のICT活用による効果を増大する長期的要因と短期的要因の特定
自然と環境	准教授	大森 聡一	蛇紋石分解実験法の開発

放送大学教育振興会助成による研究:多様なメディアの研究開発、教材及びシステム等の研究開発

所属	職名	氏名	研究課題名
生活と福祉	准教授	川原 靖弘	xR実技演習の手法を用いた教育支援システムに関する研究
心理と教育	教授	岩崎 久美子	成人学習者のセグメント化による学習ニーズに応じた学習環境整備に関する研究
心理と教育	准教授	高橋 秀明	遠隔「研究(指導)」実践過程の記述:放送大学大学院「研究指導」科目を対象に
社会と産業	教授	児玉 晴男	Webキャスティングコンテンツのマルチデバイスアプリ開発に関する研究
人間と文化	特任教授	稲村 哲也	博物館活用による遠隔教育の教材および教育システムの開発
情報	教授	仁科 エミ	パソコン視聴に適合した放送教材の音質とその改善の研究
情報	教授	廣瀬 洋子	音声認識システムを活用したメディア教材の字幕化及び多言語化の研究
情報	教授	伏見 清香	国内外における情報デザイン教育の現状調査と分析-新たな情報デザイン教育を目指して-

放送大学教育振興会助成による研究:教材の海外への普及・協力事業、国際交流の促進事業

所属	職名	氏名	研究課題名
情報	准教授	森本 容介	スペイン・カタルーニャ公開大学のシステム、特に試験を含む成績評価の在り方に関する調査研究

放送大学教育振興会助成による研究:機関特別推進研究等に係る助成

所属	職名	氏名	研究課題名
	副学長	岡田 光正	放送大学の効果的な学生増加方策の検証について
	副学長	岡田 光正	学習教育戦略研究所における研究の推進

日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究(氏名は代表者)				
所 属	職 名	氏 名	研究種目	研究課題名
自然と環境	教授	谷口 義明	基盤A	スーパーウインドによる銀河と銀河間物質の共進化
生活と福祉	教授	山内 豊明	基盤B	看護臨床アセスメントモデル構築と人工知能による深層学習に向けた学際的探索研究
	教授	戸ヶ里 泰典	基盤B	看護実践に特化した健康生成論とストレス対処力概念SOCに関する応用モデルの開発
心理と教育	教授	小川 正人	基盤B	労働法制改編に伴う教員の新たな勤務時間管理方策の影響と課題に関する調査研究
	教授	森 津太子	基盤B	ナッジとしての"見つめる目"効果:仮想および実空間における社会実験
社会と産業	教授	柳原 正治	基盤B	外交官、国際法学者、そして裁判官としての安達峰一郎に関する総合的研究
人間と文化	教授	野崎 歆	基盤B	「作者」の死と再生:フランス・ロマン主義文学の現代的意義をめぐる総合的研究
情報	教授	加藤 浩	基盤B	学習者の表出動作から心的状態を推定し集計・フィードバックするシステムの開発
	教授	近藤 智嗣	基盤B	コンピュータビジョンと行動分析による複合現実感展示システムのインテリジェント化
	教授	中川 一史	基盤B	国語科「読むこと」領域の学習者用デジタル教科書を活用した学習指導モデルの開発
自然と環境	教授	岸根 順一郎	基盤B	キラル物質における対称性の破れと電磁応答
愛知SC	特任教授	氏家 達夫	基盤B	胎児期に原発事故を経験した福島の子どもの小学校への適応についての発達の研究
生活と福祉	教授	下夷 美幸	基盤C	子と離別した父親の生活実態と扶養意識に関する実証的研究
心理と教育	教授	苑 復傑	基盤C	経済転換期における中国高等教育政策の背景と浸透過程
	教授	進藤 聡彦	基盤C	ルールと操作的知識の構造化が教科学習の促進に及ぼす効果と教材開発
	教授	田中 統治	基盤C	高等学校の「学びの基礎診断」によるカリキュラム・マネジメントの特徴と課題
	准教授	向田 久美子	基盤C	児童書に見る文化的スクリプトとその媒介者としての親:日中米の比較研究
人間と文化	教授	滝浦 真人	基盤C	近現代日本語におけるボライネス意識の通時的変化の研究:敬語と授受表現をめぐって
	准教授	大橋 理枝	基盤C	分野横断的な科学リテラシーの創造とそれに向けたプラットフォーム構築に関する研究
情報	教授	青木 久美子	基盤C	コンピテンシーに基づく教育(CBE)の実施に関する調査研究
	教授	浅井 紀久夫	基盤C	技能伝承のための分散協調訓練での深層学習による触力感覚再現の高度化
	教授	大西 仁	基盤C	聴覚機構に基づく感覚的協和間モデル
	教授	伏見 清香	基盤C	被災館と海外の館を繋ぐ携帯情報端末を使用した参加型成長連携ミュージアムの支援
	教授	三輪 眞木子	基盤C	高齢者のヘルスリテラシー向上のための教材開発と教育方法の提案
	教授	中谷 多哉子	基盤C	概念モデルに基づくアクターのアクセス権限を考慮した要求獲得に関する研究
自然と環境	教授	加藤 和弘	基盤C	都市の大規模樹林地は核となる生息場所となり得るのか
	教授	二河 成男	基盤C	昆虫ゲノムから探る遺伝子水平転移により獲得した遺伝情報の機能と特徴
	教授	安池 智一	基盤C	ホットキャリア生成機構の理解に基づくプラズモンケミストリーの深化
京都SC	特任教授	杉島 敬志	基盤C	オーストロネシア諸族における在来政体の比較研究—東南アジア島嶼部を中心に—
	客員教授	内堀 基光	基盤C	サラワク・イバン社会における居住空間の現代的再編成に見る社会的強靱性
生活と福祉	准教授	川原 靖弘	国際A	脳機能解析に基づくセマンティック騒音評価システム
生活と福祉	教授	山内 豊明	挑戦的萌芽研究	聴診運用能力向上のための自己改善増殖型クラウド環境システムの開発実証研究
人間と文化	特任教授	稲村 哲也	挑戦的研究(萌芽)	山岳高所・遊牧地域における遠隔教育の可能性
情報	教授	加藤 浩	挑戦的研究(萌芽)	主体的問題解決能力育成のための漸進的目標形成モデルを用いた学習支援システムの構築
	教授	仁科 エミ	挑戦的研究(萌芽)	基幹脳を活性化する超高周波の受容部位の探求
社会と産業	准教授	白鳥 潤一郎	若手B	先進国間協調体制の形成と変容:主要国首脳会議における日本外交、1975-1983
	特別研究員	小栗 寛史	特別研究員奨励費	慣習国際法論の変容—ヨーロッパ国際法の普遍化の帰結として

その他外部資金助成による研究(本学の教員が代表のもののみ)					
所 属	職 名	氏 名	助成元	資金名・事業名等	研究課題名
生活と福祉	教授	田城 孝雄	公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団	自主事業	在宅医療・地域包括ケアシステム推進のための 人材育成研修
情報	教授	青木 久美子	公益財団法人 北野生涯教育振興会	生涯教育研究助成金	生涯学習を可視化するデジタルクレデンシャルの調査研究

学習教育戦略研究所における研究

学習教育戦略研究所は、学習や教育、放送大学学園の経営について、教員と事務職員とが協働で課題解決に向けた活動を行う新しい形の研究組織として2018年度に設置された。本学園が保有する膨大な学習・教育情報の分析等を通じて、最先端のICT技術も含め、より効果的な学習・教育方法の調査・研究や、本学園の経営改

善に資する各種情報の収集・分析、それら成果の活用等を行うことにより、変化する社会ニーズへ迅速に対応し、本学園や我が国の高等教育の充実発展に寄与することを目的としている。

2019年度には、教職員からの提案を受け、次の研究課題を実施した。

研究課題(2019年度実施)

研究課題	研究代表者
学習センターの将来機能に関する分析	石川学習センター 平田透 所長
オンライン授業科目の学修時間に関する調査研究	情報コース 青木久美子 教授
放送大学における研究倫理教育のあり方とその可能性	生活と福祉コース 戸ヶ里泰典 教授
技術士の継続研鑽制度に関する放送大学の協力可能性について	情報コース 中谷多哉子 教授
リメディアル数学の開発および改善に関する研究	情報コース 芝崎順司 教授
技術者に対する初期専門能力開発教育と放送大学授業とのマッチングに関する調査研究	社会と産業コース 松井美樹 教授
実験を伴う研究指導のためのクラウド連携インタフェース利用の実践	生活と福祉コース 川原靖弘 准教授
放送大学博物館設立・「博物館実習」科目新設に向けての予備的研究	人間と文化コース 稲村哲也 教授
データサイエンス教育のためのオンライン講座の試作	情報コース 浅井紀久夫 教授
生涯学習支援番組・オンライン講座で使用するデジタルバッジの基本設計に関する研究	情報コース 山田恒夫 教授
CBT導入による単位認定試験の実施可能性に関する総合調査	情報コース 秋光淳生 准教授
GPS情報を利用した学生募集広告のスマートフォンへの自動配信の有効性調査・分析	東京文京学習センター 林徹 所長
地域ネットワークを活用した放送大学及び岡山学習センターにおける機能強化策の研究・調査プロジェクト	岡山学習センター 松本俊郎 所長
税理士試験の科目免除を視野に入れた「会計コース(仮)」の開設に関する検討	社会と産業コース 齋藤正章 准教授
地方の都市域における、学生募集広告のスマホへの自動配信の有効性検証	香川学習センター 大平文和 所長
放送大学における聴覚障がい学生への情報保障に関する研究	池田龍彦 副学長
ICTスキル底上げに向けた面接授業教材の改善と学び合い支援のための調査研究	情報コース 仁科エミ 教授

放送大学研究年報

『放送大学研究年報』は本学の専任教員等が日頃の研究成果を発表する場である。2019年度版を2020年3月に発行した。

2019年度放送大学研究年報(第37号)著者及び論題一覧

著者	論題
戸ヶ里泰典、高井浩平、小林真理子、井出訓、神研二郎	国内大学の医学系・理科系を除く学部・研究科における人を対象とする研究倫理委員会の実態と意向
山田知子	大正期における東京の方面委員一形成過程と生活支援の実態
倉光 修	心理療法過程で現れるスピリチュアルイメージ—宗派を超えて
波田野茂幸	放送大学における公認心理師養成に向けた「心理実習」の検討
佐藤仁美	表現された色と形—Santiago Atitlánの子どもたちを中心に—
河合明宣、吉田瑞樹、川島英昭	放送大学のサークル活動を通じた地域貢献：生涯学習から学習コミュニティ形成へ
河原 温	《モンプリエ・パーチメント》の謎—ブルゴーニュ公シャルル・ル・テメレルの統治における政治的アレゴリーの一例—
奈良由美子、スヘー・バートルガ、稲村哲也、鈴木康弘、石井祥子、高橋博文、高市善幸、長谷川智則、ビャンバジャブ・ナラマンダハ	モンゴル西部ホブド市における地形学的ハザード分析と住民参加型の地域防災活動に関する実践的研究
石井祥子、稲村哲也、鈴木康弘、ダンガー・エンフタイワン、奈良由美子、高橋博文、スヘー・バートルガ、ビャンバジャブ・ナラマンダハ、ケレイド・ハスエリドン	モンゴル、ホブド県における遊牧民の災害の記憶・認識と「防災啓発」
上野達彦	「ソビエト社会主義刑法」とは何だったか—刑法学教科書の目次構成の透視とともに(予備的作業)—
湯川史郎	放送大学附属図書館所蔵「ちりめん本コレクション」調査ノート—メディア史の視点から—
島内裕子	『先進繡像玉石雑誌』の研究—兼好伝の位相を中心に—



放送大学研究年報 第37号

研究成果の発表・普及【書籍】

本学の専任教員・学習センター所長は、研究成果を発表し共有・普及するために、印刷教材以外にも、多数の書籍を編集・執筆している。また辞書・辞典などの編纂も行っている。これらの書籍は市販されていて購入することが可能である。また、本学や公共の図書館などに

も所蔵されて、閲覧可能である。ここに掲載された著作は、より専門的かつ先進的な内容を含んでおり、各教員が日々取り組んでいる独自の研究テーマや研究活動の成果であるので積極的に手にとってほしい。

所属・氏名	書籍名・辞典名	出版社	
生活と福祉	大曾根 寛 福祉社会へのアプローチ[上巻][下巻](共編著)	成文堂、2019年5月	
	川原 靖弘 AI事典 第3版(共著)	近代科学社、2019年12月	
	下夷 美幸 日本の家族と戸籍——なぜ「夫婦と未婚の子」単位なのか	東京大学出版会、2019年11月	
	関根 紀子 平成30年度体力・運動能力調査報告書	スポーツ庁、2019年10月	
	山内 豊明 まるごと図解 心電図の見かた	照林社、2019年6月	
心理と教育	小川 正人 日本社会の変動と教育政策—新学力・子どもの貧困・働き方改革— (単著)	左右社、2019年9月、全240頁	
	解説 教育六法 (編修) 学校における働き方改革と学校現場からの要望	三省堂、2020年2月、全1232頁 『子ども白書』2019年8月、かもがわ出版、85頁～90頁	
社会と産業	白鳥 潤一郎 朝海浩一郎日記：付・吉田茂書翰(共編著)	千倉書房、2019年10月	
	原 武史	天皇は宗教とどう向き合ってきたか 増補新版 レッドアローとスターハウス	潮出版社、2019年4月 新潮社、2019年5月
		「松本清張」で読む昭和史 地形の思想史	NHK出版、2019年10月 KADOKAWA、2019年12月
		女帝の日本史(ハングル版)	成均館大学校出版部(韓国)、2020年1月
	柳原 正治 世界万国の平和を期して—安達峰一郎著作選	東京大学出版会、2019年5月	
	李 鳴 逐条解説 保険法(共著)	弘文堂、2019年6月	
	人間と文化	稲村 哲也 東ヒマラヤ 都市なき豊かさの文明(分担執筆)	京都大学学術出版会、2020年3月
魚住 孝至 武道と日本人		青春新書・青春出版、2019年11月	
河原 温		金沢周作編「論点・西洋史学」(分担執筆)	ミネルヴァ書房、2020年3月
		批評文学としての「枕草子」「徒然草」	NHK出版、2019年6月
島内 裕子		森鷗外事典(分担)	新曜社、2019年6月
		高校生と考える21世紀の論点 桐光学園大学訪問授業	左右社、2019年4月
杉森 哲也		「シリーズ三都 京都巻」(編著)	東京大学出版会、2019年7月
		異邦の香り ネルヴァル「東方紀行」論	講談社文芸文庫、講談社、2019年7月
		高校生と考える21世紀の論点 桐光学園大学訪問授業	左右社(分担執筆「不思議の国フランス」53頁～65頁)、 2019年4月
野崎 歆		翻訳家たちの挑戦 日仏交流から世界文学へ	水声社(分担執筆「翻訳という名の希望」285頁～301頁)、 2019年7月
	ナチス映画論 ヒトラー・キッチュ・現代	森話社(分担執筆「ジャン＝ピエール・メルヴィルとナチス——「待つこと」をめぐって」227頁～234頁)、2019年12月	
	ネルヴァル「火の娘たち」(翻訳)	岩波文庫、2020年3月	
自然と環境	谷口 義明 アンドロメダ銀河のうずまき	丸善出版、2019年7月	
障がいに関する学生支援相談室	角田 哲哉 障害のある子どもへのサポートナビ～特別支援教育の理解と方法(松浦俊弥と共著)	北樹出版、2019年4月	
宮城学習センター	大淵 憲一 紛争と和解を考える：集団の心理と行動(編著)	誠信書房、2019年8月	
福島学習センター	千葉 悦子 東日本大震災と社会教育(編著)	東洋館出版、2019年6月	
京都学習センター	杉島 敬志 杉島敬志(編)コミュニケーション的存在論の人類学	臨川書店、2019年12月	
鳥取学習センター	小林 一 新スマート農業(共著)	農林統計出版、2019年5月	
島根学習センター	田坂 郁夫 松江市史 史料編I 自然環境(編集・分担執筆)	松江市、2019年7月	
岡山学習センター	松本 俊郎 「満洲国」期の中国東北における中小金属企業、機械器具企業 —日本経済史からのコメント—(坂根嘉弘・森良次編著「日本の経済発展をどうとらえるか」)	清風堂出版、2019年9月	

研究成果の発表・普及【論文】

大学教員の教育の原動力になるものは専門の研究である。ここから湧き出る問題を追い求める力が、新たな発見を生み出す。本学の専任教員・学習センター所長は、各分野・領域における専門家である。研究論文は審査を受け学術雑誌から世に放たれる。2019年度に発表された、学術論文を紹介する。

所属・氏名	論文名	発表媒体等
生活と福祉	大曾根 寛	フランスにおける障害者雇用支援システム 大曾根寛ほか編(2019)『福祉社会へのアプローチ』[上巻]、成文堂、175-186頁
	関根 紀子	Hinkley JM, Morton AB, Ichinoseki-Sekine N, Huertas AM, Smuder AJ, Exercise Training Prevents Doxorubicin-induced Mitochondrial Dysfunction of the Liver. Med Sci Sports Exerc 51(6) 1106 - 1115 2019年6月
		Huertas AM, Morton AB, Hinkley JM, Ichinoseki-Sekine N, Smuder AJ, Modification of Neuromuscular Junction Protein Expression by Exercise and Doxorubicin. Med Sci Sports Exerc. 2020年1月
	山内 豊明	中川名帆子・山内豊明・小西真人: 新任看護系大学教員に必要な教育実践能力に関する質的研究-ベテラン教員と新任看護系大学教員の意見に焦点をあてて- 岐阜聖徳学園大学看護学研究誌、4巻、1-13、2019
		Mihoko Usui and Toyoaki Yamauchi, Guiding patients to appropriate care: Developing Japanese outpatient triage nurse competencies, Nagoya Journal of Medical Science. Vol. 8, No. 4, 597-612, 2019
	後藤妃佐絵・山内豊明: 心不全の急性増悪発見に際しての看護師のフィジカルアセスメント項目についての臨床看護師の認識 日本臨床看護マネジメント学会誌、1巻、35-41、2019	
吉村 悦郎	高齢男性による同世代の男性を対象とした料理教室の実践 日本健康教育学会 27(3), 271-281	
	Enhanced biosynthesis of CdS nanoparticles through Arabidopsis thaliana phytochelatin synthase-modified Escherichia coli with fluorescence effect in detection of pyrogallol and gallic acid. Synthesis of Gold Nanoparticles by Extracellular Components of Lactobacillus casei. ChemistrySelect 2019(4) 7331-7337	
	Improving biosynthesis of Au-Pd core-shell nanoparticles through Escherichia coli with the assistance of phytochelatin for catalytic enhanced chemiluminescence and benzyl alcohol oxidation. Functional characterisation of two ferric-ion coordination modes of TtFbpA, the periplasmic subunit of an ABC-type iron transporter from Thermus thermophilus HB8. Free flavins accelerate release of ferrous iron from iron storage proteins by both free flavin-dependent and -independent ferric reductases in Escherichia coli. J. Inorg. Biochem. 199(Oct) 110795	
小川 正人	自治体行政の環境変容と地方教育行政の課題 『国立教育政策研究所創立70周年記念シンポジウム』2020年3月 33頁~60頁	
	乳幼児期・学童期・思春期の子どもの死の理解、特徴と対応 『エンド・オブ・ライフケア』2019年5月、7-12	
小林 真理子	渡邊 裕美, 小林 真理子, 小泉 智恵, 奈良 和子, 塚野 佳子: がん患者の妊娠・出産・育児に寄り添う心理支援 祝祭性と身体 『日本生殖心理学会誌』5巻2号、2019年10月、35-40	
	橋本 朋広 『臨床心理身体運動学研究』2020年3月、1-14	
原田 順子	Kitada, M. and Harada, J. (2019) "Progress or regress on gender equality: The case study of selected transport STEM careers and their vocational education and training in Japan" Transportation Research Interdisciplinary Perspectives, vol.1. (published online 3 June 2019)	
	李 鳴 私法第81号pp.185-192、2019年8月	
河原 温	15世紀ブルゴーニュ公国の世界—宮廷・都市・儀礼— 法学研究第92巻12号 pp.103-126、2019年12月	
	新刊紹介 P. Oldfield, Urban Pangeyric and the Transformation of the Medieval City, 1100-1300, OxfordUP, 2019 『ヨーロッパ前近代の複合国家』(愛知大学人文科学研究所、研究報告論文集、2020年2月、7-21頁。 『西洋中世研究』、No.11、2019年11月、248頁	
	近藤 成一 Mechthild Albert/Elke Brüggem/Konrad Klaus (Hg.), Die Macht des Herrschers, Bonn 2019, 183-190.	
	Pour une réhabilitation de Lamartine au Japon 『立教大学 フランス文学』第48号、立教大学フランス文学研究室、2019年4月、75-80	
野崎 欽	ネルヴァルと夢の書物 『すばる』2019年7月号、集英社、256-274	
	寛容の精神——渡辺一夫と大江健三郎を読む 『kotoba』第38号、2020年冬、集英社、120-125	
辻 靖彦	近代日本文学における外国語体験——翻訳のダイナミズム 『言語文化』第37号、2020年3月、明治学院大学言語文化研究所、51-63	
	田中功一・小倉隆一郎・辻 靖彦: ヒアノ初学者の練習方略の明確化を目的とした演奏の収録とインタビュー調査 音楽教育メディア研究 Vol.6, No.6, pp.69 - 79	
情報	Yasuhiko TSUJI, Design of a Students' Learning Web Site using AI Chat Bot Based on FAQ data for Enhancing Remedial Education at the Open University of Japan E-Proceedings of the International Conference on Distance Learning, Research and Innovation for a Digital Society, pp.41-45, 2019.8.1, Sukhothai Thammathirath Open University(STOU)	
	佐藤雄朗、中谷多哉子: 新規開拓事業におけるシステム構築履歴の分析 信学技報 119(56) 37 - 42 2019年5月	
	小川一彦、中谷多哉子: CNN-BIシステムによるプログラムの不具合発見の検証 ソフトウェアシンポジウム論文集 75 - 83 2019年6月	
	辻脇優一、中谷多哉子: 新規製品開発時の発想支援ツールの提案 ソフトウェアシンポジウム in 熊本, 2019論文誌 29 - 35 2019年6月	
	Yuichi TSUJIWAKI and Takako NAKATANI, An Idea Support Method and a Tool for New Product Development The Proc. of the 21st International Conference on Human-Computer Interaction 95 - 102, 2019.7	
	Nobuhiko MIZUSAWA and Takako NAKATANI, Error Classification and Human Performance Level Analysis of "Hiyari-Hatto" Incidents Caused by Maintenance Engineers The Proc. of the Third Conference, Creativity in Intelligent Technologies & Data Science 2019 (CIT&DS 2019) 1084 245 - 257, 2019.9	
	佐藤雄朗・中谷多哉子: 新規事業におけるシステム開発履歴の分析 信学技報 119(467) 13 - 18 2020年3月	
	小川一彦・中谷多哉子: CNN-BIシステムによるプログラムの不具合発見の精度向上のための研究 信学技報 119(467) 73 - 78 2020年3月	
	藤井辰雄・中谷多哉子: インターネットに投稿されたスミッシングメール画像からの情報分析 信学技報 119(467) 31 - 36 2020年3月	
	廣瀬司・中谷多哉子: インシデントリテラシー向上のための情報セキュリティゲームと導入教育の融合 信学技報 119(467) 25 - 30 2020年3月	
宮崎正弘・中谷多哉子: 学習テキストの分析による標準原価計算オートロジーの構築 信学技報 119(467) 37 - 42 2020年3月		
仁科 エミ	Doi H, S Sulpizio, G Esposito, Katou M, Nishina E, Iriguchi M, Honda M, Ohashi T, M H. Bornstein & Shinohara K, Inaudible components of the human infant cry influence hemodynamic responses in the breast region of mothers The Journal of Physiological Sciences, 69, 1085-1096, 2019.11.	
三輪 眞木子	三輪眞木子・八巻知香子・田村俊作・野口武悟: 視覚障がい者の健康医療情報ニーズの特性と提供の際の課題 現代の図書館58,(1)46-51、2020年3月	
森本 容介	森本容介・仲林清・星野忠明・前田宏: ELECOAを用いたcmi5対応学習管理システムの設計と実装 教育システム情報学会誌, Vol.37, No.1, pp.19-31	

所属・氏名	論文名	発表媒体等	
自然と環境	石崎 克也	Ishizaki, K. and N. Kimura, Entire and meromorphic solutions of the functional equation $f^n + g^n + h^n = 1$ and differential equations Heittokangas, J., K. Ishizaki, I. Laine and K. Tohge, Complex oscillation and non-oscillation results Relationship between Vegetation Structure and Avian Communities on Miyakejima Island, Japan, 13 years after a Major Volcanic Eruption.	Comput. Methods Funct. Theory, 19 (1) (2019), 157-172. Trans. Amer. Math. Soc. 372 (9) (2019), 6161-6182. Katoh, K., Yoshikawa, T., Kamijo, T. & Higuchi, H. (2020) Pacific Science, 74, 1-18.
	加藤 和弘	The Measurement of Wildlife Exposure to Cadmium Contributes to Assess its Contamination in the Hiroshima Wide-area Urban Districts and the Human Health.	Nitta Y., Miki Y., Suenaga M., Tanaka H and Katoh K. (2019) The Hiroshima Journal of Veterinary Medicine, 34, 77-84.
	谷口 義明	ALMA uncovers the [C II] emission and warm dust continuum in a $z = 8.31$ Lyman break galaxy CHORUS. III. Photometric and Spectroscopic Properties of Ly α Blobs at $z = 4.9-7.0$	Bakx, T., et al. 2020, MNRAS, 493, 4294
		ALMA band 8 observations of DLA 2233+131 at $z = 3.150$	Zhang, H., et al. 2020, ApJ, 891, id.177
		Balmer Break Galaxy Candidates at $z \sim 6$: A Potential View on the Star Formation Activity at $z \gtrsim 14$	Ogura, K., et al. 2020, PASJ.tmp, 154
		Physical Characterization of an Unlensed, Dusty Star-forming Galaxy at $z = 5.85$	Mawatari, K., et al. ApJ, 889, id.137
	岸根 順一郎	Big Three Dragons: A $z = 7.15$ Lyman-break galaxy detected in [O III] 88 μm , [C II] 158 μm , and dust continuum with ALMA	Casey, C. M., et al. 2019, ApJ, 887, id.55, 18pp
		Anomalous spiked structures in ESR signals from the chiral helimagnet CrNb ₃ S ₆	Hashimoto, T., et al. 2019, PASJ, 71, id.71
		Surface-size and shape dependencies of change in chiral soliton number in submillimeter-scale crystals of chiral magnet CrNb ₃ S ₆	Yoshizawa D. et al. 2019 PHYSICAL REVIEW B 100, 104413 Ohkuma M. et al., 2019, AIP Advances 9 075212
	宮城学習センター	Theory of standing spin waves in a finite-size chiral spin soliton lattice	Kishine, J. et al. 2019 PHYSICAL REVIEW B 100 024411
Observation of orbital angular momentum in the chiral magnet CrNb ₃ S ₆ by soft x-ray magnetic circular dichroism		Mito M. et al. 2019, Physical Review B 99 174439	
秋田学習センター	Anomalous Temperature Behavior of the Chiral Spin Helix in CrNb ₃ S ₆ Thin Lamellae	Togawa Y. et al. 2019, Phys. Rev. Lett. 122, 017204	
	Minjoo Joo1, Kari A. Terzino, Susan. E. Cross1, Naomi Yamaguchi, and Ken-ichi Ohbuchi: How does culture shape conceptions of forgiveness? Evidence from Japan and the United States.	『Journal of Cross-Cultural Psychology』第50巻 (2019年), 676-702頁 https://doi.org/10.1177/0022022119845502	
福島学習センター	大淵 憲一	『心理学研究』第90巻 (2019年) 252-262頁 『Psychology and Behavioral Sciences』第 8巻 (2019年) 91-99頁	
東京文京学習センター	西田 眞	中川知宏・仲本尚史・國吉真弥・森文弓・山入端津由・大淵憲一：なぜ非行集団に同一化するのか—集団間関係に基づく検討— Kawabata, T. & Ohbuchi, K.: The role of emotions and social information processing in the decision processes of aggressive behavior.	IEEJ Transactions on Electrical and Electronic Engineering, Vol.15, No.6, in press 特許第6418551号
	林 徹	H. Ishikawa, Y. Kageyama, C. Ishizawa, T. Takahashi, M. Nishida, H. Shinden, T. Takizawa, T. Koyama, M. Kobushi, Analyzing Amber Color Features and Methods of Estimating Colors of Amber Debris 高橋毅 西田眞、景山陽一、石沢千佳子、鈴木賢太、遠藤八郎：倉庫作業支援装置及び倉庫作業支援プログラム 東日本大震災 被災自治体の今—福島訪問調査から見えてくるもの	『住民と自治』2019年12月号pp34-37 嶋田珠巴ほか編『言語接触と日本語の未来』東京大学出版会 (2019年)、pp.49-64. 野田尚史編『日本語と世界の言語のとりたて表現』くろしお出版 (2019年)、pp.219-236.
三重学習センター	清水 眞	2章：言語における固有と外来 トルコ語のとりたて表現 Responses to questionnaires of young Turkish-German bilinguals in Berlin: Their thoughts about language choice	Asian and African Languages and Linguistics, vol.14 (March, 2020), pp. 69-81.
	伊東 昌子	M. Shimizu, T. Morimoto, Y. Yanagi, I. Mizota, and Y. Zhu, An umpolung reaction of alpha-iminothioesters possessing a cyclopropyl group	RSC Adv., 10, (17), 9955-9963 (2020). DOI: 10.1039/d0ra01152e
		M. Shimizu, Y. Furukawa, I. Mizota, and Y. Zhu, An umpolung reaction of alpha-iminonitriles and its application to the synthesis of aminomalonalnitriles	New J. Chem., 44, (1), 152-161 (2020). DOI: 10.1039/C9NJ05114G
		I. Hachiya, K. Nakamura, M. Hara, K. Sato, and M. Shimizu, Domino 1,4- and 1,6-Addition Reactions of Ketene Silyl Acetals to Dialkynyl Imines Promoted by Aluminum Chloride: Synthesis of Multi-Functionalized β -Lactams	J. Org. Chem., 84, (22), 14770-14794 (2019). DOI: org/10.1021/acs.joc.9b02364
		M. Shimizu, M. Mushika, I. Mizota, and Y. Zhu, Double nucleophilic addition to iminomalonnate, leading to the synthesis of quaternary alpha-amino diesters and desymmetrization of the products	RSC Adv., 9, (40), 23400-23407 (2019). DOI: 10.1039/c9ra4889h
		M. Shimizu, H. Katsurayama, I. Mizota, and Y. Zhu, A Facile Synthesis of 2-Methyl-3-Oxindoline-2-Carboxylates Utilizing Aza-Brook Rearrangement as a Crucial Step	J. Herocyclic Chem., 56, (9), 2479-2486 (2019). DOI: 10.1002/jhet.3637
I. Hachiya, S. Nagoshi, and M. Shimizu, Titanium Tetraiodide/Trimethylsilyl Iodide Synergistically Induced Cyclization of N-(2-Cyanophenyl)benzamides into 2-Aryl-4-iodoquinazolines	ACS Omega, 4, (6), 10463-10473 (2019). DOI: 10.1021/acsomega.9b01199		
京都学習センター	杉島 敬志	M. Shimizu, H. Imazato, I. Mizota, and Y. Zhu, A facile approach to 2-alkoxyindolin-3-one and its application to the synthesis of N-benzyl matemone I. Mizota, Y. Tadano, Y. Nakamura, T. Haramiishi, M. Hotta, and M. Shimizu, Tandem N,N-Dialkylation Reaction to Synthesize α -Amino Acid Derivatives	RSC Adv., 9, (30), 17341-17346 (2019). DOI: 10.1039/c9ra02204j Synfacts, 15, 1077 (2019). DOI: 10.1055/s-0039-1690516
	伊東 昌子	序論 — 参与観察を講えて コミュニケーションにおける様相変化 — インドネシア・中部フローレスにおける妖術の記述的考察	杉島敬志編『コミュニケーション的存在論の人類学』臨川書店, pp. 5-47, 2019年12月20日刊 杉島敬志編『コミュニケーション的存在論の人類学』臨川書店, pp. 123-165, 2019年12月20日刊
長崎学習センター	Study of twice-weekly injections of Teriparatide by comparing efficacy with once-weekly injections in osteoporosis patients: the TWICE study	Osteoporos Int 30(11): 2321-2331, 2019	

国際交流の取り組み

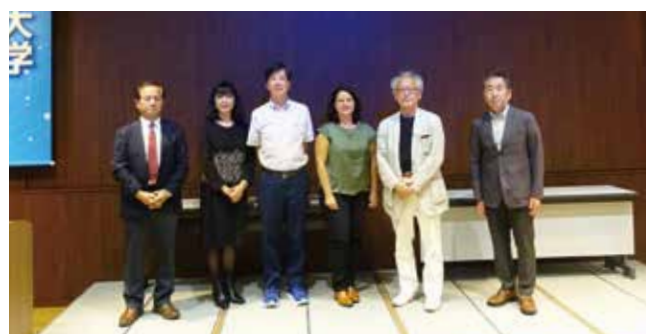
2019年度は、昨年度に続き、本学が加盟する国際会議での発表や海外の協力交流協定大学への調査訪問等により連携強化を図った。また、海外の遠隔教育機関より講演者を招へいしての国際シンポジウムの開催や、海外からの来訪を多数受け入れるなど、積極的な国際交流に取り組んだ一年となった。

2019年度放送大学国際シンポジウムの開催

2019年9月28日、東京文京学習センターにて、国内外より専門家2名を講師として招き、「オンライン学習評価の方法～海外の最新事例から～」をテーマとした国際シンポジウムを開催し、約85名の在学生、卒業生、一般市民などが参加した。

第一部では、スペイン・カタルーニャ公開大学 Ana Elena Guerrero Roldán 教授より、「学習のための適応型信頼ベースオンライン学習評価システム TeSLA および LIS プロジェクトの事例より」と題した講演が行われ、第二部では、広島工業大学 データサイエンス研究センター長、廣瀬英雄教授より、「大規模オンラインテストングによる教育支援とそのラーニングアナリティクス」と

題した講演が行われた。第三部では、岩永雅也副学長がモデレーターとなり、講演者2名とのディスカッションを行い、両講演者の経験に基づいた様々な意見を聞くことができた。



第33回AAOU2019年次大会への参加

2019年10月14日～16日、パキスタン・ラホール市 Pearl Continental Hotelにてパキスタン・バーチャル大学主催によりアジア公開大学連合 (AAOU=The Asian Association of Open Universities) 第33回年次大会が開催され、アジア諸国を中心に約120名の参加があった。本学からは、AAOU理事を務める來生学長のほか、計6名が参加した。

大会のテーマ“Open Distance Learning: 2020 and Beyond” (公開遠隔教育:2020年とそれから)のもと、山田恒夫教授は“Implementation of Digital Badges for Online and Offline Course Records: Possibilities for Micro Credentials and Quality Assurance”という題目で、学習者自身が保持し、スキルベースかつ検証・共有・相互運用可能であるべき生涯にわたる学習のデジタル資格証明の一つの重要な要素として、Open Badge version 2を用いたデジタルバッジ実装の取り組みについて、辰己教授は“Development of Online Courses on a Method of Coding Education

for K12 Teachers in Japan”の題目でオンライン講座「小学校プログラミング教育」について、立ち上げの経緯に関係する社会情勢、政府の方針などを含めて発表した。安池教授は“Computational Chemistry as Virtual Laboratory in Open and Distance Learning”の題目で、通学制大学の化学系教育の中核をなす化学実験で獲得が期待されるスキルの多くを、GUIベースの計算化学シミュレーション環境をバーチャル実験室と見立てたオンライン講義によってトレーニングする取り組みについて報告し、Best Practice Awardの銀賞を受賞した。神総務課課長補佐は“Digitalization of Examinations in OOU – Current Situation and the Future”の題目で、本学における単位認定試験のCBT/IBT化に向けた取り組みについて、カナダ・アサバスカ大学やタイ・スコータイ・タマティラート公開大学の事例との比較を交えて発表した。

ICDE会議への参加

国際遠隔教育会議 (ICDE=International Council for Open and Distance Education) の世界大会が、2019年11月3日～7日、アイルランド・ダブリンにて開催され、本学から青木教授と鈴木教授が参加し、分科会発表を行った。「生活と社会の変革」のテーマのもと、オープン・

エデュケーション推進に関わる多様な機関等から約360名が参加した。公開討論では、オープン・エデュケーションに焦点をあて、情報共有や今後の方向性について活発な議論が交わされた。

第9回日中韓セミナー参加報告



2019年5月24日、韓国放送通信大学校(KNOU)の主催により、第9回日中韓セミナーが開催された。本セミナーは本学と協力交流協定を締結している国家開放大学(中国・OUC)およびKNOUの3国間で2009年から持ち回りで開催している。

セミナーは“Transforming Open Education with Innovative Technologies” (革新的テクノロジーでオープン教育を変える) をメインテーマとし、計6名の講演者による発表があった。

セッション1では、岸根教授が「学習支援の観点から見た教育の技術革新」をテーマに、本学におけるテレビ・ラジオ・オンラインによる教育手段を物理教育の実践を例にとって語り、セッション2では、石崎教授が「教育支援の観点から見た教育の技術革新」をテーマに、TV科目「入門微分積分('16)」とオンライン科目「演習微分積分('19)」の講義における、ICT技術の紹介を中心に報告を行った。特に、両科目を通して採用している「課題解決・知識伝達併用型」の授業形態と演習科目における小テストに新たに導入した2段階の受験方法について説明し、活発な質疑応答がなされた。

カタルーニャ公開大学への調査訪問

2019年10月30日～31日、本学と協力交流協定を締結しているスペイン・カタルーニャ公開大学(UOC)を青木教授、森本准教授、神総務課課長補佐が訪問し現状調査を行った。

訪問初日には、バルセロナ市街地北部にあるUOC本部の現代言語センターで日本語科目を担当する大槻教授を訪問し、日本語科目を例にUOC教員の業務等につ

いて説明を受けた。

2日目にはUOCの現状説明、学習チュータリング制度や質保証、多岐にわたる学生向けサービスについての具体的な説明、そして生涯学習の新しいモデル事業についての説明及び意見交換が行われた。

調査の詳細な内容は報告書にまとめられ、本学の研究及び運営等に役立てられる。

海外からの来訪

2019年度は、下記のとおり外国からの訪問者が遠隔教育に関する情報交換等のために本学を訪れた。

月日	来訪者	国/地域	月日	来訪者	国/地域
5月21日	スコタイ・タマティラート公開大学(9名)	タイ	11月20～22日	韓国放送通信大学校(3名)	韓国
6月26日	広東開放大学(8名)	中国	12月12日	モンゴル国立大学(1名)	モンゴル
9月27～28日	カタルーニャ公開大学(1名)	スペイン			

社会への貢献

本学は「開かれた大学」として、建学以来、熱心に社会貢献に取り組んできた。多岐にわたる社会貢献活動を行っているが、ここではその中から、本学の教員が行った活動の一部を紹介する。

日本学術会議

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信の下、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24年(1949年)1月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立された。職務は、以下の2つである。

- 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
- 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野における科学者約87万人を内外に代表する機関である。210人の会員と約2,000人の連携会

員によって職務が担われている。

日本学術会議の役割は、主に①政府に対する政策提言、②国際的な活動、③科学者間ネットワークの構築、④科学の役割についての世論啓発である。(日本学術会議ホームページより)

本学の教員も連携会員に選ばれ、その活動に貢献している。

下表は本学の会員加入状況を示すものである。

氏名	職名	専門分野
伊東 昌子	特任教授	臨床医学
稲村 哲也	特任教授	地域研究・環境学
岩永 雅也	副学長	心理学・教育学、社会学
林 徹	特任教授	言語・文学
柳原 正治	教授	法学

学会、国、地方自治体等での活動

本学の教員は学識者として、それぞれの専門性を生かし、社会において幅広く活躍している。活躍の場は学会のみならず、国・地方自治体等の様々な組織で活動し、社会の発展に寄与している。以下にその一部を紹介する。

所属	氏名	役職
生活と福祉	大曾根 寛	日本社会保険法学会監事、名古屋市障害者差別解消支援会議座長
	関根 紀子	スポーツ庁体力・運動能力調査に関する検討委員会委員、日本体力医学会評議員、日本体力医学会渉外委員
	山内 豊明	厚生労働省医道審議会委員、文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術予測センター専門調査員、日本学術振興会専門委員、日本医療機能評価機構医療事故等収集事業総合評価部会委員、日本医療機能評価機構医療事故等収集事業専門分析班委員、日本医療機能評価機構教育研修事業運営委員会委員、日本医療マネジメント学会理事、日本臨床看護マネジメント学会理事、日本看護学会評議員、日本看護教育学会評議員
	岩崎 久美子	千葉県千葉市 新基本計画審議会政策評価部会 副部会長、千葉県千葉市教育委員会 第12期千葉市生涯学習審議会委員、神奈川県川崎市 政策評価審査委員会委員、独立行政法人青少年教育振興機構 評価委員、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 国立大学教育研究評価委員会専門委員、日本生涯教育学会評議員、日本教育社会学会編集委員
心理と教育	岩永 雅也	独立行政法人日本学術振興会大学の世界展開力強化事業プログラム審査委員、足立区文化・読書・スポーツ総合推進会議会長、足立区生涯学習公社理事、足立区生涯学習関連施設指定管理者評価委員
	小川 正人	十文字学園女子大学外部評価委員、筑波大学附属駒場中・高等学校学校評価評議員、日本教育社会学会理事・編集委員、一般社団法人社会調査協会専務理事
	小野 けい子	文部科学省 第9期中央教育審議会 副会長、同 初等中等教育分科会長、同 学校における働き方改革特別部会長、第10期中央教育審議会臨時委員、文部科学省(高校生への修学支援に関する協力者会議)主査、国立教育政策研究所評議員(評議員会長)
	倉光 修	教科書研究センター理事、日白大学理事・評議員、東京都中央区教育委員会・点検・評価に関する有識者、同 教育振興基本計画検討委員会委員長、日本教育行政学会理事、日本教育学会理事
	小林 真理子	日本遊戯療法学会理事
	進藤 聡彦	日本臨床心理士会代議員、栃木県公認心理師協合理事、日本遊戯療法学会理事
社会と産業	橋本 朋広	山梨県社会教育委員副議長、甲府市児童福祉審議会委員、東北福祉大学外部評価委員、甲斐市いじめ防止連携会議委員長、日本教育心理学(代議員)ハラスメント防止委員会委員長・編集委員、日本教授学習心理学(理事)編集委員
	波田野 茂幸	日本ローレンジャッハ学会理事
	児玉 晴男	立川市就学支援等検討委員会委員(立川市教育委員会)
	白鳥 潤一郎	一般社団法人企業法学会理事、一般社団法人企業法学会「企業法学会研究」編集委員会委員、一般社団法人日本機械学会法工学専門会議運営委員会委員
	原 武史	公益財団法人日本国際問題研究所歴史・領土センター国際政治史検討委員会
	松原 隆一郎	日中文化交流協合理事
人間と文化	柳原 正治	横浜市物流等関連施設等指定管理者選定評価委員会 委員、人材育成学会選挙管理委員会委員
	稲村 哲也	ナショナル・レゾリエンス懇談会委員、国立劇場評議会委員、杉並芸術会館運営に関する懇談会委員長、東京都屋外広告物委員
	河原 温	一般財団法人アジア平和貢献センター特別顧問、国際法協会日本支部研究企画主任、九州国際法学会理事長、国際法学会名誉理事
	近藤 成一	長久手市国際交流協会会長
情報	角田 哲哉	西洋中世学会大会準備委員、第10回日韓西洋中世研究集会準備委員会代表
	廣瀬 洋子	歴史科学協議会代表理事
	辻 靖彦	都市史学会副会長
	加藤 和弘	一般社団法人全国高等教育障害学生支援協議会 監事、PEPNet-Japan(日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク)運営委員、文部科学省 先導的の大学改革推進委託事業選定に係る有識者会議 テーマ選定委員、文部科学省先導的の大学改革推進委託事業「重度障害学生に対する支援のあり方に関する調査研究」WGメンバー
	角田 哲哉	文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター 専門調査員、一般社団法人環境情報科学センター理事、千代田区生物多様性推進会議副議長、千代田区ちよだ生物多様性大賞選定委員会副座長
	西田 眞	千葉県教育委員会開かれた学校づくり(四街道特別支援学校)委員、千葉県四街道市特別支援教育専門家チーム委員
	悦子 弥生	秋田県地方独立行政法人評価委員会 委員長、秋田県自然エネルギー開発協会 会長、秋田県公営企業売電候補者選定審査委員会 委員長、照明学会東北支部幹事
	清水 真	千葉県青少年ホーム運営委員会委員
	杉島 敬志	舞踏学会会長、独立行政法人芸術文化振興基金運営委員会委員、2019舞踏年鑑編集委員長
	西田 正吾	公益信託伊藤徳三ひまわり研究基金運営委員、三重大学付属病院医薬品等受託研究審査委員、有機合成化学協会東海支部常任幹事、四日市市新規産業創出研究会副委員長、The International Symposium on Integrated Synthesis組織委員、IUPAC International Conference on Novel Materials and their Synthesis組織委員
平田 健正	二本松学院 京都建築大学校、学校関係者評価委員会委員、二本松学院、京都伝統工芸大学校、学校関係者評価委員会委員、松下幸之助記念志財団理事	
松本 大平	公立大学法大監事(非常勤)、一般社団法人システム制御情報学会代議員、システム制御情報学会SCI 20 組織委員会委員、奈良先端科学技術大学院大学支援財団支援事業第14期選考委員会委員、ヒューマンインタフェース学会評議員、一般財団法人懐徳堂記念会評議員、奈良女子大学大学院人間文化研究科生活工学共同専攻外部評価委員	
文和 律子	環境省 中央環境審議会 臨時委員、環境省 国内における毒ガス弾等に関する総合調査検討会 副座長、香川県 豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会 委員	
伊東 昌子	岡山県生涯学習審議会および社会教育委員会	
	文部科学省微細加工プラットフォーム事業委員、四国能力開発大学校部会委員、座長	
	中央教育審議会委員(生涯学習分科会副分科会長)、福岡県教育振興審議会委員	
	日本骨粗鬆症学会理事・評議員、日本骨代謝学会監事・評議員、日本骨形態計測学会評議員・アドバイザー、日本性差医学・医療学会理事・評議員、日本学術会議連携会員、長崎県立大学法人評価委員会委員、長崎県医師会男女共同参画委員会委員、ながさき女性活躍推進フォーラム実行委員会委員、ながさき女性医師の会監事	

一般向け講演会

大学で培われた教育並びに研究の成果を広く社会に提供することは、大学と社会との垣根を取り去り、相互のさらなる発展が期待される。本学の教員は、その専門知識を、講演会を通じて社会に還元している。

以下にその活動の一部を紹介する。

一般向け講演会			
所属	氏名	テーマ	共催等
生活と福祉	大曾根 寛	障害者差別解消法について	名古屋市
心理と教育	岩崎久美子	千葉の教育の力で、志を持ち、未来を切り開く、ちばの子供を育てる - 論点の提示- 地域社会における社会教育委員の役割 人生100年時代「リカレント」教育の現場から 学校における働き方改革の論点と課題	千葉県教育委員会 次世代へ光り輝く「教育立県ちば」を実現する有識者会議、2019年5月30日 群馬県中部地区社会教育委員研究集会、2019年9月11日 愛知県教育委員会 リカレント教育推進会議、2020年3月5日 情報教育対応教員研修全国セミナー・学校とICTフォーラム2020 in品川、2019年4月27日 石川県教員総合研修センター・学校経営セミナー、2019年7月31日 国立教育政策研究所創立70周年記念シンポジウム、2019年11月8日
	小川 正人	学校における働き方改革の基本方針と取組みの課題 自治体行政の環境変容と地方教育行政の課題 自治体行政の環境変容と地方教育行政-県費負担教職員の人事権移譲をめぐる状況- 学校における働き方改革の論点と取組みの課題、展望	中核市教育長会、2020年1月9日 千葉県教育研究所連盟研修会、2020年1月29日 広島市「学校におけるいじめ防止対策及び働き方改革推進フォーラム」、2020年2月5日
	小野けい子 小林真理子	性格の話-自分と他者理解のための座標軸- がん患者さんと家族への支援	草の根歯科勉強会2019年10月20日 「Dive In Japan」2019年9月4日、上智大学
	波田野茂幸	発達障害教育シンポジウム「発達障害について知る -多様性のある社会作りに向けて-」 東京は首都足りうるか 平成から令和へ-いま天皇制を考える	東京都教育委員会主催 開催日:2020年2月1日 場所:たましんRISURUホール 法政大学江戸東京センター 全国歴史教育研究協議会
社会と産業	原 武史	東京駅・皇居前広場・皇居 二人の皇后-貞明皇后と皇后美智子 平成から令和へ-いま天皇制を考える	法政大学デザイン工学部 ジェンダー史学会 九州大学・放送大学福岡学習センター
	松原隆一郎	「無電柱化の日シンポジウム」災害から見た無電柱化の必要性 無電柱化まちづくりシンポジウムin中国地方 無電柱化まちづくりシンポジウムin東北 「無電柱化実現への筋道」無電柱化まちづくりシンポジウム 「無電柱化実現への筋道」無電柱化推進セミナー アベノミクスと地方経済-改革・金融緩和で経済は持ち直すのか- 地方都市とサブカルチャー	東京都 NPO法人電線のない街づくり支援ネットワーク NPO法人電線のない街づくり支援ネットワーク NPO法人電線のない街づくり支援ネットワーク 日本電圧協会 福山大学経済学部 大分・ゲンジシヤ
人間と文化	稲村 哲也	Las características del pastoreo altoandino, en comparación con los pastores asiáticos	場所: Auditorio de Casa Garcilazo, Cuzco, Peru 主催:ハル文化庁、日本文化庁、国立民族学博物館
	魚住 孝至	武士の剣術鍛錬とその美学	佐渡市教委・新潟学習センター共催講演会、佐渡市真野ふるさと会館、2019年9月6日
	近藤 成一	佐藤進一氏の鎌倉時代政治史研究について 中世の博多	中世史研究会大会シンポジウム、名古屋大学、2019年9月14日 福岡県立図書館・放送大学連携記念公開講演会、2020年1月18日
	杉森 哲也	「安土図屏風」の実像とその歴史的意義 フランス文化の「不思議」 堀口大学の翻訳詩 夢の交歓(塚本昌則との対談) 野崎歎のフランス文学案内	滋賀学習センター公開講演会、2019年11月2日 NHK文化センター講演会、NHK文化センター青山教室、2019年4月2日、5月7日、6月4日、7月2日、9月3日、10月1日、12月3日 長岡・堀口大学を語る会、第27回講演会、2019年5月15日 神保町ブックセンター・岩波書店、2019年5月23日 朝日カルチャーセンター-新宿教室、2019年5月31日、7月5日、9月27日、11月22日、2020年1月24日、2月28日
	野崎 歎	ノートルダムと文学 フランス文学 名作の世界へ 初心者でも読める! ブルースト「失われた時を求めて」(鹿島茂との対談)	NHK文化センター名古屋教室、2019年7月18日 NHK文化センター横浜ランドマーク教室、2019年9月20日 NHK文化センター青山教室、2019年10月4日
		翻訳は文学の栄養素 The Joy of translation? (柴田元春、和田忠彦、沼野泰子、松永美穂とのシンポジウム) フランス文学から映画へ「ヴィクトル・ユゴー「ノートルダム・ド・パリ」」をめぐる 僕らが本からもらったもの(中条省平、駒井稔との鼎談) 映画、夢のリアリズム 時代の流れにあらがって 大河小説の可能性 ガイック・ブンガクのミライ フランス文学が教えてくれること	みと区民大学・明治学院大学言語文化研究所共催講演会、2019年10月22日 東京外国語大学総合文化研究所、2019年10月23日 上智大学ヨーロッパ研究所主催講演会、2019年10月29日 出版文化産業振興財団、2019年11月1日 東京女子大学学生会主催講演会、2019年11月15日 ロマン・ロン研究所・アンステイテュ・フランセ関西-京都共催講演会、2019年11月30日 放送大学文京学習センター公開講演会、2019年12月14日 放送大学群馬学習センター公開講座、2019年12月21日 NHK文化センター講演会、NHK文化センター仙台教室、2019年7月21日 全国同時7ヶ講演会・千葉学習センター公開講演会、千葉学習センター、2019年7月7日 東京多摩学習センター公開講演会、東京多摩学習センター、2019年8月4日 福岡学習センター公開講演会、北九州市立生涯学習総合センター、2019年8月31日 宇都宮生涯学習センター講演会、宇都宮生涯学習センター、2019年10月17日 佐賀学習センター公開講演会、アバンセ開館25周年記念アバンセ、アバンセホール、2019年10月20日 放送大学福井学習センター公開講演会、2019年11月2日
自然と環境	谷口 義明	「宇宙はなぜブラックホールを造ったのか」 「宇宙はなぜブラックホールを造ったのか」 「宇宙はなぜブラックホールを造ったのか」 「天の川が消える日」 「宇宙はなぜブラックホールを造ったのか」 「宇宙はなぜブラックホールを造ったのか」	放送大学福井学習センター公開講演会、2019年11月2日 日本心理学会公開シンポジウム「高校生のための心理学講座シリーズ」、東北大学川内南キャンパス、2019年9月8日 日本教育心理学会第66回総会シンポジウム「今、差別を考える-社会心理学からの提言」日本大学文理学部、2019年9月15日 大阪市立男女共同参画センター中央館、2019年6月23日 郡山市民館長研修会、郡山市民館、2019年7月3日 会津坂下町「男女共同参画」研修会、会津坂下町公民館、2019年8月9日 日本社会教育学会第66回研究大会・会場校企画「社会教育と大学の役割」早稲田大学、2019年9月14日 三重県生涯学習センター「みえアカデミックセミナー2019」2019年7月18日
障がいに関する学生支援相談室	角田 哲哉	障害のある学生への支援	岡山県立図書館、2019年10月19日 備前市立図書館、2019年12月8日
宮城学習センター	大淵 憲一	人間関係の光と影 公正研究から差別を考える 福島的女性たちのいま-復興に向けたリーダーシップ~ 公民館の役割-地域学習と人づくり	県社会教育委員研修会 2019年11月13日 新任校長・教頭研修会 2019年12月25・26日 長崎県食生活改善推進員研修会、2019年5月24日 GS10フォローアップ2019、2019年7月4日 国立研究開発法人科学技術振興機構 放送大学沖縄学習センター、2019年8月11日
福島学習センター	千葉 悦子	男女共同参画をなぜすすめていかなければならないのか 復興・再生に向けた住民の学びと大学の役割-地方国立大学の経験から	第11回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムin福岡、2019年9月20日 長崎県教育センター研修講座、2019年10月7日 長崎県栄養士会学術研修会、2019年10月26日 放送大学長崎学習センター、2019年11月24日 学園祭特別企画講演会、放送大学宮崎学習センター2019年10月12日(土)
三重学習センター	清水 真	フッ素化合物の化学: フライパンから人工血液まで	
岡山学習センター	松本 俊郎	幕末開港とロシア艦隊 幕末開港とロシア艦隊	
福岡学習センター	菊川 律子	人生百年時代の社会教育委員の活動 学校教育と男女共同参画社会	
長崎学習センター	伊東 昌子	健康長寿社会を生かすために知っておきたい骨粗鬆症の知識 大学教職員のためのダイバーシティ・マネジメントとワークスタイル・バージョン~長崎大学における取組の紹介 女性の社会進出と高等教育 ~男女共同参画の視点から~	
		支援から戦略へ ~組織と個人に必要なこと 女性のキャリアアップのために 人生100年時代の「転ばぬ先の杖」~骨粗鬆症にならないために~ 知っておきたい骨粗鬆症の知識	
宮崎学習センター	松下 洋一	「宮崎のスキ」の成分を活かす利用途の研究	

表彰・受賞

所属	氏名	受賞・表彰内容
人間と文化	野崎 敏	第17回角川財団学芸賞受賞(著書「水の匂いがあるよーだー井伏鱒二のほうへ」に対し)
自然と環境	橋本 健朗	Editor's Choice (paper in the top five percent of submissions), Chem. Phys. Lett. : X 2(2019) 100010, Hibiki Iwase, Kenro Hashimoto*, "Decoupled coordinates for precise molecular vibrational analysis by vibrational self-consistent-field and vibrational configuration interaction methods", April 2019
新潟学習センター	新村 末雄	公益社団法人日本畜産学会功労賞(第38号)受賞、「動物における配偶子と初期胚ならびに生殖腺の機能と形態に関する研究推進と後進の育成」、2020年3月26日
鳥取学習センター	小林 一	厚生労働大臣表彰(鳥取地方労働審議会・永年貢献)、2019年11月23日

その他社会貢献

所属	氏名	社会貢献内容	
心理と教育	小野 けい子	保育子育てアドバイザー養成講座「描画を用いた心理療法」2019年6月30日 東京バウム研究会「遺棄症男児の箱庭療法過程とバウムテスト」2019年9月28日	
	小林 真理子	家庭裁判所調査官養成課程合同研修講師「描画法」 がん研有明病院 GCLS研究会「子育て中のがん患者さんと子どもへの支援 ～医療者にできることを考える～」2019年8月30日 東京都立新宿山吹高等学校校内研修会「がんになった親とその子どもへの理解と学校における支援」2019年10月7日 日本サイコソロジー学会心理士研修会「AYA世代の心理支援」2019年10月10日 栃木県教育相談研修「子どもの理解:心の発達の視点から」(教員対象)2019年10月18日 読売新聞「がんの親を持つ子のケア:学校との連携 安心に」2019年6月3日 高知新聞「子どもの片付け」に関する記事掲載(2020年3月9日)ほか10社 「がん教育における配慮事項ガイドライン」執筆、2020年2月、一般社団法人全国がん患者団体連合会発行	
		上智大学がんプロフェッショナル養成講座:e-learning 教育コンテンツ「がんになった親と子どもを支える」作成、2020年3月	
		東京都特別支援教育推進室主催 就学相談担当者講習会 「保護者の心情に寄り添う 就学相談のあり方 ～面談の実践について～」 2019年6月26日、7月2日 東京都特別支援教育推進室	
		東京都小平市教育委員会主催 講演(教員対象) 「教育相談と保護者対応について」 2019年6月28日 小平中央公民館	
		東京都中部学校経営支援センター主催 講演(教員対象)「思春期青年期の理解と発達障害」2019年11月8日 東京都教育庁東京都教職員研修センター 港区子ども家庭支援部主催 講演(児童館職員対象)「発達障害についての基本的理解」2019年11月14日 港区立高輪子ども中高生プラザ	
		東京都立中野特別支援学校 夏季全校研修会 「より良いコミュニケーションのためにできること」一課題解決にむけた「やりとり」(受け答え)の基礎— 2019年7月29日 東京都立中野特別支援学校	
	中野区主催 中野区ペアレントメンター養成事業 講演(区民向け)「親と子の育ち合いー発達テストの活用ー」 2019年9月7日 中野ZERO 豊島区子ども家庭部子ども若者課主催 豊島区子ども研修 「保護者対応」(学童施設/保育園職員対象) 2019年10月7日 / 2020年1月31日 上池袋コミュニティセンター多目的ホール		
	知的財産高等裁判所専門委員		
	航空自衛隊幹部学校論文指導教官(幹部高級課程学生の論文指導)		
社会と産業	大森 聡一	人事院 2020年度国家公務員採用総合職試験 試験専門委員 ちば産学官連携プラットフォーム 2019年12月21日ちば学リレー講座7 ちばの「ジオロジー」～“チバニアン”と私たち～ 東京工業大学非常勤講師「熱力学(地惑)」 早稲田大学教育学部非常勤講師「地学通論実験I」	
	加藤 和弘	東京大学工学部非常勤講師「生態学・生態工学」(12回中7回を分担) 「宇宙・天文を学べる大学合同説明会」近畿地区 「宇宙・天文を学べる大学合同説明会」九州地区 フジテレビ「とくダネ!」出演(2019年4月11日、ブラックホールの解説)	
		谷口 義明	TBSラジオ「鈴木聖奈LIFELAB～○○のおじ様たち～」出演(2019年8月24日、銀河の解説) TBSラジオ「鈴木聖奈LIFELAB～○○のおじ様たち～」出演(2019年8月31日、ブラックホールの解説) NHK Eテレ「サイエンスZERO」"宇宙夜話 第6回"出演(2019年12月1日、天文学と芸術の関係について) 「朝日新聞 論座」記事掲載(2020年1月14日)「宮沢賢治の宇宙観はアインシュタインを超えていた「銀河鉄道の夜」から見える「躍動する宇宙」の先見性”
		秋田学習センター	秋田テレビの「土曜Live!あきた」にコメンテーターとして月1回程度出演
	福島学習センター	第6回福島県女子学生懸賞作文審査委員(委員長)	
		福島県男女共生センター館長(非常勤) 福島大学非常勤講師「生活構造論I」(15回) 岩手大学 社会人学び直しプログラム いわて生涯学習子育て講座「被災当事者の復興に向けた学びとエンパワメントージェンダーの視点から」11月20日	
	三重学習センター	金沢大学理工研究域物質化学系特別講義、2019年7月1日 Keynote Lecture, IUPAC International Conference on Novel Materials and their Synthesis, Shenyang University of Technology, Shenyang, China, Sept 8, 2019. Invited Lecture, Henan Polytechnic University, Ziaozuo, China, Oct 28, 2019. Invited Lecture, Henan University, K'aifeng, China, Oct 29, 2019. Invited Lecture, Zhengzhou University, Zhengzhou, China, Oct 30, 2019.	
		鳥取学習センター	地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS、JST・JICA)「持続的食料生産のための乾燥地に適応した露地栽培結合型アクアポニックスの開発」(2016～2020年)の研究員
		香川学習センター	かがわ健康関連製品開発地域プロジェクトディレクター 一般財団法人「大西・アオイ記念財団」奨学金給付選考委員

学習センターの活動、この1年

入学者の集い

4月と10月に、各学習センターで「入学者の集い」を開催した。全国で年間43,715名の学部生と4,114名の大学院生(うち、博士後期課程11名)が入学し、本学における学びへの第一歩を踏み出した。



八戸サテライトスペース



秋田学習センター



福島学習センター



栃木学習センター



群馬学習センター



千葉学習センター



東京足立学習センター



神奈川学習センター



新潟学習センター



石川学習センター



山梨学習センター



愛知学習センター



三重学習センター



大阪学習センター



和歌山学習センター



鳥取学習センター



島根学習センター



広島学習センター



徳島学習センター



愛媛学習センター



高知学習センター



福岡学習センター



宮崎学習センター



熊本学習センター

学習センター

名誉学生への表彰

2010年4月に、本学の全コース(旧:5専攻)すべてを卒業した学生に対して、本学において多年にわたって修学を継続した意欲的な学習者を顕彰する目的で「名誉学生」の制度を創設した。

2019年度は、87名が名誉学生となった。2019年度第2学期までに表彰された名誉学生の累積人数は、

465名である。

なお、2011年度の表彰より、全コースすべてを卒業したことに加え、人物、学習態度が良好であることが要件となっている。

名誉学生には、本学卒業後も学習センターの各種施設を利用することができる等各種特典を付与している。

新任の学習センター所長

2019年度は9つの学習センターで新たに所長が就任し、学習センターのさらなる充実と発展の為に活動に取り組んでいる。

新任の学習センター所長一覧

青森学習センター	浅野 清(あさの きよし)	島根学習センター	田坂 郁夫(たさか いくお)
埼玉学習センター	堀尾 健一郎(ほりお けんいちろう)	愛媛学習センター	加藤 好文(かとう よしふみ)
千葉学習センター	長澤 成次(ながさわ せいじ)	長崎学習センター	伊東 昌子(いとう まさこ)
東京足立学習センター	猪崎 弥生(いざき やよい)	宮崎学習センター	松下 洋一(まつした よういち)
東京多摩学習センター	五味 政信(ごみ まさのぶ)		

学習センターで周年記念式典等を開催

長野学習センターは、2017年に開設30周年を迎えていたが、仮設校舎に移転中であったため、移転が完了した2019年9月に記念式典を行い、來生学長が記念講演を行った。



地域に根ざした教育

面接授業

本年度も、多彩な面接授業が各学習センターで3,032科目が開講された。いろいろな学問分野の基礎だけではなく、地域に根ざす様々なテーマに関する授業が、大学教員に加えて各界で活躍する講師が担当して開講され、多数の学生が受講した。



青森学習センター
「白神学-白神の動物と植物」



秋田学習センター
「からだの動き」



福島学習センター
「新初歩からのパソコン」



栃木学習センター
「工芸-アジアの形・日本の形」



群馬学習センター
「国有林野の生物多様性復元事業」



千葉学習センター
「潮だまりの海藻」



新潟学習センター
「雪の科学と文化への誘い」



山梨学習センター
「現代からみる仏教」



岐阜学習センター
「岐阜の歴史-信長&鶴鶴-」



三重学習センター
「野菜栽培における窒素肥料の話」



大阪学習センター
「四天王寺信仰を読み解く」



和歌山学習センター
「歩く百科事典-南方熊楠」



鳥取学習センター
「星取県から宇宙を学ぶ」



島根学習センター
「ジオパークの基礎と出雲の地質」



岡山学習センター
「瀬戸内の開発と地域・環境問題2」



広島学習センター
「広島県向島地区海洋生物実習」



山口学習センター
「宇宙と私たち」



徳島学習センター
「心理学実験1」



高知学習センター
「室戸ジオパークで学ぶ地球科学」



福岡学習センター
「音響学概論」



大分学習センター
「磨崖仏とはなにか」



宮崎学習センター
「多感覚につながる音と動きの世界」



長崎学習センター
「潜伏キリシタン関連遺産の考察(巡検)」



熊本学習センター
「タネとムシからみた縄文の暮らし」

集いの場としての学習センター

学習センターでは、学生が勉学活動に利用するだけでなく、学生団体(サークル)活動や様々な共通関心事に関して、学生の交流活動が活発に行われている。学習センターは学生の集う場ともなっている。

■学生団体(サークル)・学生活動

学生同士の親睦を深め、学業のみにとどまらない豊かなキャンパスライフを築いてもらうために、本学は学生団体(サークル)活動を支援している。学生団体(サークル)活動の中で、年齢やこれまでの人生経験が全く異なる人達と、共通の目的を持って活動することは、素晴らしい体験となるであろう。



栃木学習センター
「友の会」



福島学習センター
「Book Club」



新潟学習センター
「コーラスサークル」



群馬学習センター
「若宮クラブ」



大阪学習センター
「山歩きの会」



鳥取学習センター
「ノルディック体操」



島根学習センター
「市民活動フェスタ」



岡山学習センター
「硬式テニスクラブ」



高知学習センター
「英語研究会」



福岡学習センター
「那ノ津読書会」



長崎学習センター
「学生サークル代表者によるAED利用研修会」



宮崎学習センター
「絵画サークルワークショップ」

文化祭

多くの学習センターでは、文化祭を開催し、学生の学習成果や学生団体(サークル)活動の成果を発表、披露している。文化祭は学生同士の交流の場であると同時に、教職員、そして地域の人々も参加し、交流を深める機会となっている。



新潟学習センター
「うた声喫茶」



千葉学習センター
「第11回幕張祭」



神奈川学習センター
「フェスタ・ヨコハマ」



愛知学習センター
「第1回愛知放天祭」



滋賀学習センター
「写真公開講座」



広島学習センター
「足利銘仙の展示」



高知学習センター
「美術展覧会」



大分学習センター
「アフリカの写真展と世界の人形展1」



大分学習センター
「アフリカの写真展と世界の人形展2」

学生研修旅行等

全国の学習センターでは学生相互及び教職員の交流を図ることを目的として、学生研修旅行をはじめとする各種行事を実施している。



岩手学習センター
「岩泉町～2016年台風10号からの復興」



栃木学習センター
「鉄道博物館、川越」



岡山学習センター
「(美術館見学講座)ミイラと神々
エジプトの来世、メソポタミアの現世」

地域と密着する学習センター

学習センターでは、誰でも参加できる公開講演会、公開講座、シンポジウム等を多数開催している。本学学生にかぎらず、地域の人々に役立つ様々な話題について最新の知識が得られ、また、ともに考える機会を提供し

ている。講師は、本学関係者に加えて、それぞれの地域や分野で活躍する多彩な方々をお招きしている。以下は2019年度に開催されたもののほんの一例である。

公開講演会・公開講座

学習センター	題目	講師
北海道学習センター	超高齢社会における住居保障—どこでだれと暮らすか?—	北海道学習センター客員教授・小樽科大学教授 片桐 由喜
青森学習センター	大好きなことで、誰かの役に立つ ～地方活性化を目指したアイドル達の実践～	弘前アクターズスクール代表 樋川 新一
岩手学習センター	人類が初めて目にしたブラックホールの姿	国立天文台水沢VLBI観測所助教 秦 和弘
宮城学習センター	カズオ・イングロの終わらない物語	宮城学習センター客員教授・東北大学名誉教授 石幡 直樹
秋田学習センター	由利本荘市とジオパーク、地震、火山、大地の恵みについて考える	秋田大学教授 林 信太郎
山形学習センター	心と身体の発達を促す～育脳の視点から～	山形学習センター客員准教授 森 直樹
福島学習センター	科学と技術の歴史から未来の想像	福島学習センター客員教授 樋口 良之
茨城学習センター	63歳の親鸞—人生の再出発を目指して	筑波大学名誉教授・東国真宗研究所長 今井 雅晴
栃木学習センター	タフ・ロボティクス —災害現場で働くロボットの研究開発—	東北大学大学院教授 田所 諭
群馬学習センター	子どもと災害～3.11を忘れない～	群馬学習センター客員教授 佐光 恵子
埼玉学習センター	がん哲学 ～教育・対話学の確立～	順天堂大学名誉教授 樋野 興夫
千葉学習センター	占領期社会教育とナトコ映画 -千葉県を事例に	千葉学習センター所長 長澤 成次
東京文京学習センター	ミドリノウリムシと仏教	東京文京学習センター客員教授 細谷 浩史
東京足立学習センター	日本における現代舞踊と舞踊学	東京文京学習センター客員教授 齋藤 明
東京多摩学習センター	誤りにみる心理学	東京足立学習センター所長 猪崎 弥生
東京渋谷学習センター	危機の心理学	放送大学教授 進藤 聡彦
神奈川学習センター	記憶の謎を探る-記憶の心理学入門-	放送大学教授 森 津 太郎
新潟学習センター	新潟清酒の魅力と展開	神奈川学習センター客員教授 福田 幸男
富山学習センター	「幸せ」を科学する	新潟県醸造試験場場長 金桶 光起
石川学習センター	スマートフォンを使って災害から身を守る	富山学習センター客員准教授 松尾 藍
福井学習センター	公認心理師の仕事～司法・犯罪領域を中心に～	兵庫県立大学名誉教授 有馬 昌宏
山梨学習センター	先端技術を支える宝石	福井大学講師 栗田 智未
長野学習センター	放送大学における生涯学習の新展開	名古屋少年鑑別所地域非行防止調整官補 反中 亜弘
岐阜学習センター	小学校英語教育と私	山梨学習センター客員教授・山梨大学教授 熊田 伸弘
静岡学習センター	「富士山は巨大な水瓶」 ～シリーズ ‘富士山学’	放送大学長 來生 新
愛知学習センター	認知症700万人時代にどう向き合うか—認知症に対する様々な試み—	岐阜女子大学学長 松川 禮子
三重学習センター	三重大学における医工連携の取り組み	静岡大学名誉教授・理学部客員教授 加藤 憲二
滋賀学習センター	恋歌の世界 — まちがいだらけの百人一首 —	静岡学習センター客員教授 鷲見 幸彦
京都学習センター	京都バイオ計測センター —世界に誇る研究所が京都にあることを知っていますか?—	三重学習センター客員教授 稲葉 忠司
大阪学習センター	心理学への招待—社会から期待される臨床心理学の未来—	三重大学大学院工学研究科教授 吉川 栄治
兵庫学習センター	「牛を円筒形とみなそう:地球システムを理解するためのいくつかのヒント」	滋賀学習センター所長 植田 充美
奈良学習センター	「星の王子さま」を読み解く	京都学習センター客員教授・京都大学教授 井村 修
和歌山学習センター	「ひきこもりとゲーム・ネット依存」[依存する心理について]	奈良大学教授・大阪大学名誉教授 蛭名 邦禎
鳥取学習センター	地球温暖化と気象災害	兵庫学習センター客員教授 三野 博司
島根学習センター	心理学から見える日常の面白さ、私たちの面白さ	奈良学習センター所長 三野 博司
岡山学習センター	幕末開港とロシア艦隊	国保日高総合病院精神科臨床心理士 石橋 玄
広島学習センター	日本ワインの魅力	島根学習センター所長 田坂 郁夫
山口学習センター	人生の迷いが消える アドラー心理学のススメ	島根学習センター客員教授 石井 徹
徳島学習センター	阿波弁を発掘する	岡山学習センター所長 松本 俊郎
香川学習センター	自分を好きになることと心の健康	酒類総合研究所理事 後藤 奈美
愛媛学習センター	英国のEU離脱後の欧州事情	早稲田大学人間科学学術院教授 向後 千春
高知学習センター	高知学習センター開設25周年記念講演会 土佐の偉人 鹿持 雅澄の万葉学	徳島大学名誉教授 仙波 光明
福岡学習センター	平成から令和へ ～いま天皇制を考える～	香川県立保健医療大学副学長 川方 弘子
佐賀学習センター	中世の武家拠点と佐賀平野の開発	愛媛大学名誉教授 戸澤 健次
長崎学習センター	知っておきたい骨粗鬆症の知識	高岡市万葉歴史館長 坂本 信幸
熊本学習センター	『どこでも生涯学習』熊本城 復興にむけて(第2弾)	放送大学教授 原 武史
大分学習センター	現代のストレス社会とポジティブ心理学	佐賀大学全学教育機構教授 佐賀 正登
宮崎学習センター	“イキイキ生きる”ための連続講演会第1回講演会 第1部 “イキイキ生きる”ためのメンタルヘルス 第2部 食品機能を利用して健康を保ち“イキイキ生きる”	長崎学習センター所長 伊東 昌子
鹿児島学習センター	奄美の水産業を儲ける水産業にするためには	熊本大学大学院先端科学研究部教授 伊東 龍一
沖縄学習センター	放送大学「学び」のシンポジウム 多様性世界を生き抜く沖縄の力(レジリエンス)を求めて	熊本城調査研究センター文化財保護主幹 鶴嶋 俊彦
		大分学習センター客員教授 上野 徳美
		宮崎学習センター客員教員 川村 道子
		宮崎県立看護大学准教授 山崎 正夫
		宮崎学習センター客員教員 宮崎大学農学部教授 山崎 正夫
		鹿児島大学特任教授 木村 郁夫
		放送大学副学長 池田 龍彦
		横浜国立大学名誉教授 岸信 朋
		子供科学技術人財育成事業(中学生及び高校生)プロジェクトリーダー 合同会社MIRAIME.Lab代表 東 良和
		沖縄ソーリス株式会社代表取締役会長 伊東 昌子
		長崎学習センター所長 元長崎大学副学長(ダイバーシティ担当) 王 春生
		北京大学国際関係学院 アジア経済文化研究所事務局長 平良 朝治
		東悟コンサルティング株式会社代表取締役 藏根 美智子
		沖縄県立図書館館長 富永 大介
		放送大学客員准教授 沖縄学習センター所長 琉球大学名誉教授

データで見る 放送大学の概要

■ 役職員数 [単位:人]

役員	6	※1
学長	1	
副学長	3	※2
教員	88	
事務職員	241	
合計	337	※3

(2020年3月31日現在)

※1 学長(理事)、副学長(理事)を含む。非常勤を除く。
 ※2 副学長(理事)を含む。
 ※3 重複があるため合計は一致しない。

■ 在学生数 [単位:人]

教養学部

全科履修生	56,353
選科履修生	16,011
科目履修生	6,342
特別聴講学生(学部)	3,260
合計	81,966

(2019年度第2学期)

大学院

修士全科生	950
修士選科生	2,917
修士科目生	479
修士特別聴講学生	2
博士全科生	58
合計	4,406

(2019年度第2学期)

集中科目履修生

学校図書館司書教諭講習	680
看護師資格取得に資する科目	435
合計	1,115

(2019年度)

(注)特別聴講学生とは、他の大学等の学生で当該大学等と放送大学との協定に基づき、本学において科目の履修を行っている学生です。

■ 単位互換協定締結校数 [単位:校]

学校の種類	校数
大学院	9
大学	294
短期大学	85
高等専門学校	15
合計	403

(2020年3月31日現在)

■ 入学者数 [単位:人]

教養学部

	1学期	2学期	合計
全科履修生	7,546	4,210	11,756
選科履修生	10,479	5,473	15,952
科目履修生	5,241	6,342	11,583
特別聴講学生(学部)	1,164	3,260	4,424
合計	24,430	19,285	43,715

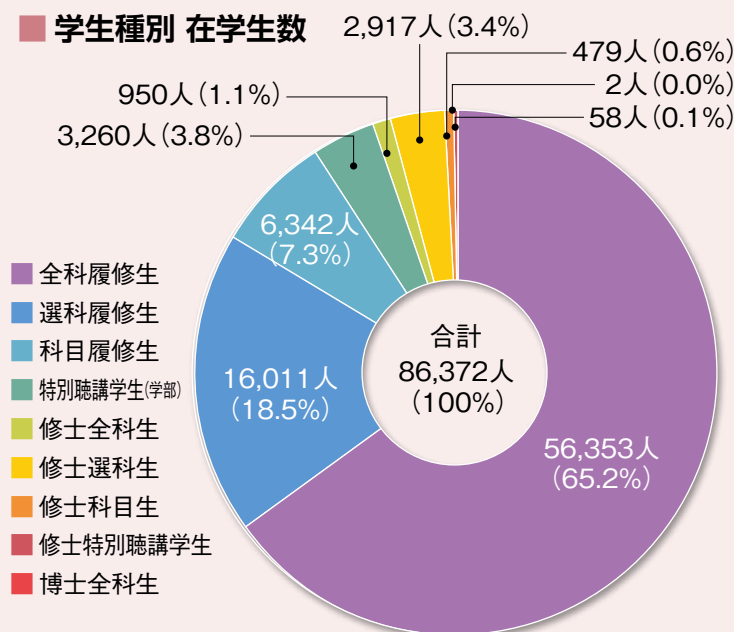
(2019年度)

大学院

	1学期	2学期	合計
修士全科生	307	—	307
修士選科生	2,079	817	2,896
修士科目生	417	479	896
修士特別聴講学生	2	2	4
博士全科生	11	—	11
合計	2,816	1,298	4,114

(2019年度)

■ 学生種別 在学生数



■ 学部卒業者数 [単位:人]

1学期	2学期	合計	累計
2,113	3,435	5,548	111,751

(2019年度)

■ 大学院修士課程修了者数 [単位:人]

1学期	2学期	合計	累計
5	314	319	6,183

(2019年度)

■ 大学院博士後期課程修了者数 [単位:人]

1学期	2学期	合計	累計
—	2	2	17

(2019年度)



〒261-8586 千葉県美浜区若葉 2-11
TEL:043-276-5111(総合受付)
<https://www.ouj.ac.jp/>